

令和4年度

年間学習計画表

5年生



東京都立白鷗高等学校

5年__組__番 氏名_____

開 拓 精 神

本校の教育を支える理念は「開拓精神」です。みずからの意志と努力をもって自己を開発していく精神、いかなる苦難にも耐えて自己の人生を切り開いていく力、社会の進展に寄与する旺盛な意欲をもつ生徒を育成することを目指しています。

I 学習計画表の活用の仕方

各教科の学習計画表には、教科ごとの目標や学習の特徴、授業の流れが提示されています。

ここには、その読み方と活用の仕方を示しました。

これを参考にして、今年1年間、どのように学習を進めていくか、自分自身の目標を立てて、計画的に取り組んでいきましょう。

その教科の3年間の学習の流れが載っています。

教科の学習目標

3年間で身につけてもらいたい、各教科の学習の目標が書かれています。

自分自身の3年後のイメージを持ち、日々の学習に取り組んでいきましょう。

3年間の科目構成と学習内容

各教科の6年間を通した科目の構成とその学習内容が書かれています。

学校では、これに基づいて、教科担当の教員間の連携を図り、組織的・体系的に指導することで、みなさんに確かな学力が身につくよう、学習活動を展開していきます。

「科目」と学習内容

各学年で学ぶ教科・科目と、その内容について書かれています。

学年が上がるに従って、どのように進んでいくのかがわかります。

3年間を見通した教科の指導計画 (平成23年度入学生)

国語科

I 国語科の学習目標

- 言語能力を高めることによって、思考力を伸ばすとともに心情を豊かにする。
- 言葉表現の理解を通して、様々な思想・人物像に触れ、自己の考えを確立し、自己の生き方について考える態度を育成する。
- 優れた国語表現を学ぶとともに、自己の目で確かに対象を捉え、それを国語で適切に表現し伝達できるようにする。
- 言葉の活用能力を身につけるとともに、日本文化の特質を理解し、現代社会を担う者としての良識を養う。
- 古典にゆかりのある事項を履修することによって、ものの見方、感じ方、考え方を広げること。

国語科の3年間の科目構成と学習内容

学年	科目	単位数	学習内容
1年	国語総合(必修)	計5単位	1. 言語能力を高め、文章読解力の向上を目指す。教科書の文章を中心に学習する。 2. 評論、小説、詩歌、思想など様々な分野の作品を学習する。 3. 言語事項として、識字能力の向上を目指す。補助教材を用いて学習する。
	現代文(必修)	2単位	1. 言語能力を高め、文章読解力をさらに高めるために、教科書の文章を中心に学習する。 2. 評論、小説、詩歌、思想など様々な分野の文学作品を学習する。長期休業期間を利用して、長編作品の読解・鑑賞の学習を行う。
2年	国語総合(必修)	計5単位	1. 古文に親しみ、読解する能力を身につける。 2. 説話、日記・紀行、物語、筆記、隨筆、和歌など様々な分野の代表的な作品を学習する。 3. 文法事項として、歴史的仮名遣い・品詞の活用・用言の活用・助動詞・助詞の一部・敬語法の理解までを学習する。 4. 古文の語法に親しむために、百人一首の完全な暗唱を目標とする。
	現代文(必修)	2単位	1. 古文に描かれている内容を的確に捉える能力を身につける。 2. 説話、隨筆、歴史物語、日記、物語、俳文・俳論など様々な分野の作品を学習する。 3. 古典文学史の知識を、補助教材を用い、小テストなどを活用して、習得する。
3年	国語総合(必修)	計5単位	1. 古文に描かれている内容を的確に捉える能力を身につける。 2. 漢文に親しみ、読解する能力を身につける。 3. 漢文に描かれている内容を的確に捉える能力を身につける。
	現代文(必修)	2単位	1. 言語能力を高め、文章読解力をさらに高めるために、教科書の文章を中心に学習する。 2. 問題解決能力の向上を目指してセンター試験過去問題の演習を行う。
4年	国語総合(必修)	計5単位	1. 古文・漢文とも、文法・句法に留意して読解能力の向上を目指す。 2. 古文・漢文とも、問題解決能力の向上を目指して、センター試験過去問題の演習を行う。 3. 古文単語・漢文語彙を正確に理解するため、補助教材を用いて学習する。
	現代文(必修)	2単位	1. 言語能力を高め、文章読解力をさらに高めるために、教科書の文章を中心に学習する。 2. 問題解決能力の向上を目指してセンター試験過去問題の演習を行う。
5年	国語総合(必修)	計5単位	1. 古文・漢文とも、文法・句法に留意して読解能力の向上を目指す。 2. 古文・漢文とも、問題解決能力の向上を目指して、センター試験過去問題の演習を行う。 3. 古文単語・漢文語彙を正確に理解するため、補助教材を用いて学習する。
	現代文(必修)	2単位	1. 言語能力を高め、文章読解力をさらに高めるために、教科書の文章を中心に学習する。 2. 問題解決能力の向上を目指してセンター試験過去問題の演習を行う。
6年	国語総合(必修)	計5単位	1. 言語能力を高め、文章読解力をさらに高めるために、教科書の文章を中心に学習する。 2. 問題解決能力の向上を目指してセンター試験過去問題の演習を行う。
	現代文(必修)	2単位	1. 言語能力を高め、文章読解力をさらに高めるために、教科書の文章を中心に学習する。 2. 問題解決能力の向上を目指してセンター試験過去問題の演習を行う。

その教科の各科目の1年間の授業計画が示してあります。

学習の到達目標

その学年のうちに、どのような力を身につけてほしいか、教科の到達目標が書かれています。

年間を通して、どのようなことが目標なのか、そのためにどうしたらよいかを考えて、授業に取り組み、学習を進めていきましょう。

考 査

定期考査(テスト)の時期と出題の範囲が書かれています。

家庭学習を含めて、計画的にテストへ向けての準備をしましょう。

学習内容・授業時間数

年間の中で、いつ、どのような学習を、どのくらいするのか書かれています。

1年間の見通しを持って、学習計画を立てていきましょう。

教科名	国語科			
科目名	国語総合・現代文			
対象	4学年全員			
I 学習到達目標				
1 評論を読み、その論旨の展開をたどりつつ、要旨・筆者の主張を的確に読み取るができるようになること。				
2 小説を読み、作品の構成・登場人物の人物像・主題などを的確に読み取るができるようになること。				
3 詩歌を読み、国語表現の豊かさを味わいつつ、その作品世界の趣きを感じ取ることができるようになること。				
4 随想を読み、その作品に示された筆者の感性・人柄・人生観などを読み取ることができるようになること。				
5 常用漢字表を中心として、漢字の読みかた・書きかたを正確に覚えることができるようになること。				
II 授業の進め方(授業形態等)				
1 国語総合単位のうち、2単位時間で学習する。評定は、現代文・古文・漢文の3領域を総合したものとなる。				
2 課題学習を中心とする。学習確認のための小テストを毎月毎に実施する。また、定期的にノートの提出を求める。				
3 補助教材については、小テストの実施、定期考査の範囲に含めることにより学習する。				
III 教科書・補助教材				
教科書	精選 国語総合 東京書籍	「新版初訂カラー版新国語標準」第一学習社		
補助教材	「音と形で覚える漢字の漢習」明治書院			
IV 学習計画				
期	月	学習内容	授業時間	備考
一学期	9	【教科書】による学習内容 評論「愛」という言葉 P.10～17	【音と形で覚える漢字の漢習】 1～19 音と形による分類 1回～8回	
	4	1学期 評論「水の東西」 P.18～24	P.20～35 音と形による分類 1回～8回	4～6
	5	中 間 テスト 小説「羅生門」 P.26～39	9回～16回	6～8
	6	1学期 末 テスト 詩歌「紫陽花へ」 P.98～99 「秋の祈」 P.100～102 評論「理解と誤解」 P.46～52	P.36～51 音と形による分類 17回～24回	6～10
	7	小説「なめとこ山の熊」 P.64～79 詩歌「なげのひきかた」 P.103～105		4～6
	8	随想「仲蔵の手記から」 P.140～164	P.52～79 音と形による分類 25回～38回	
二学期	9	2学期 宿 題 テスト 小説「十五の心」 P.108～112	P.80～97 音と形による分類 39回～47回	4～6
	10	中 間 テスト 評論「聴くということ」 P.53～62		4～6
	11	2学期 末 テスト 評論「情報伝達」という神話 P.122～127 評論「もの記号」 P.128～138	P.98～115 音と形による分類 48回～56回	2～4 6～8
	12	詩歌「冬唄」 P.113～117		2～4
三学期	1	冬休み 宿 題 テスト 表現「君たちに伝えたいこと」 P.182～187	P.116～133 部首による分類 1回～9回	
	2	3学期 1 評論「文明のメソロジー」 P.166～174 2 評論「断片化する世界」 P.175～180	P.134～151 部首による分類 10回～18回	4～6 6～10
	3	補助プリント	P.152～180 総合問題	
			計 70	

長期休みの宿題

夏期、冬期、春期の各長期休業中に
出される宿題・課題と、その後の確認
テストの有無がわかります。

普段なかなか取り組めないような、長
い休みを活かした課題や、教科の実力
を磨くための、総まとめをする宿題など
が出されます。

また、休み明けには、その成果を確認
するためのテストが行われることもあり
ます。

評 価

成績評価について、書かれています。

どんな力や態度をみるのか、またそのための評価方法や使用する資料の主なものは何か、などが書かれています。

各学期定期考査(小テスト)・宿題の提出及び宿題テスト・ノート提出・小テストを加味した総合評価の対象となる。なお平常点の中に「関心・意欲・態度」「思考」「知識・理解」「表現」の観点別の評価を含むものとする。現代文と総合考査(1回)の最終評価を行い、学年末には古文・漢文と総合して「国語総合」としての最終的評定を行う。

白鷗高校の学習について

(1) 四年制大学進学に対応する授業の内容である。

白鷗高校に入学してくる生徒はほぼ 100% 四年制大学への進学を希望しています。特に国公立大学への進学を希望している割合が多く、毎年多くの生徒が大学入試センター試験を受験しています。

私立大学も大学入試センターの試験を利用する大学が増加しています。生徒によっては多科目の受験の準備が必要となります。

教科・科目は大学センター試験に対応して教育課程の中に位置づけられ設定されています。各科目の授業内容は、センター入試の問題を確実に解答し、さらに二次試験や私立の難関大学の入試問題を解答できる学力を育成することを想定しています。

また、大学進学後の専門的な勉強や研究を行っていく上で、十分な力を身につけることができるように考えられています。

(2) 各クラスによって学習内容が異なることのない計画的な学習である。

白鷗高校の授業は各クラスによって学習内容や進度が異なることがないように行われます。そのようなことが可能なのは、各教科・科目の授業の進展がこの年間学習計画に沿って行われているからです。各科目の学習内容はあらかじめ分かっているので、当然皆さんは1ヶ月先の予習や2ヶ月先の予習を行うことも可能です。長期休業中に次の学期の予習を全て終わらせてしまい、学期の授業が始まってからは、自分が必要と考えている専門的な高度な勉強を行うこともできます。

(3) 白鷗高校の授業は家庭学習での予習を前提に成り立っている。

白鷗高校で受け継がれてきた「辞書は友達、予習は命」という言葉は家庭での学習がいかに大事であるかを端的に言い表しています。翌日の予習を全教科きちんと行うと大体2時間～3時間はかかると思います。こうした予習時間を毎日確保することが、進学準備へとつながっていくのです。

予習をきちんと行うと授業で先生に教わった内容に、疑問点、質問が必ず起こってきます。学習は深化すれば深化するほど疑問点は増えるからです。そうした疑問点、質問をそのままにせず、先生に聞いて下さい。白鷗高校の先生は必ずそういった質問に対してきちんと応えてくれます。

(4) ノートの提出、小テストの実施を頻繁に実施する。

白鷗高校の授業の大きな特徴は、頻繁にノートの提出、レポートの提出が行われる、あるいは小テストが多くの授業でたびたび実施されるということです。これは授業に対しての皆さんの学習の状況を正確に把握しようとするためや、学習成果の定着を確認しようとする意図があります。これらの先生方の要求する提出物や小テストの実施を受け身で考えるのではなく、自分の学力を点検し、伸ばしていくチャンスとして頑張っ欲しいと考えています。

進路指導計画について

1 進路実現に向けて

(1) 現役受験生である皆さんは学校の授業を大切に

当たり前のことですが、今学校で行っている授業をおろそかにして学力の伸長はあり得ません。4・5年生で行う、授業の予習・復習のサイクルをきちんと行い、自分ではわからなかった点をよく整理して授業に臨むことは、高い学習効果があります。問題演習だけが受験準備ではないのです。学力は総合的なものであって、個々の断片的な知識の集積ではありません。また、大学生になってからの学問には、文系・理系に関わらず幅広い知識が要求されます。毎日毎時間の授業を大切に、未来へ向けての準備をしましょう。

(2) 計画的な学習を行う

おそらく皆さんは4年生の段階から、すでに何らかの形で受験勉強をスタートしていることと思います。例えば、国語の学習として古文の文法事項の整理、英語の学習として単語、熟語の暗記など、自分でいくつかの学習項目を立てて勉強を始めていることでしょう。学習が進めば進むほど勉強しなければならない範囲の広さに気がつくと思います。

来年高校3年生になるにあたり、自分の受験勉強のゴール地点（目標大学の過去問）を1回分解いてみるのも有効です。ゴール地点の到達目標が見えると、これから学習する科目の内容をきちんと計画を立てて進めることができます。

あなたのゴールは、第1志望校の過去問題が解けるようになることです。そこに到達するまでの道は一つではありません。一つの科目をじっくりと時間をかける人もいれば、短い時間に集中的に勉強することが得意な人もいます。自分の性格や学習スタイルに合った勉強方法をとってください。計画を立てて勉強するときのコツは、計画がうまくいかなくても自分はダメだと思わないことです。計画は変更すればいいのですから、あまり厳密に方法を決めないほうが計画は予定通り進むのではないのでしょうか。停滞しない限り、あなたの進歩は続いているのです。

具体的な、地歴公民科目と理科科目の大学入学共通テスト対策としては、夏休みまでに、終了した範囲の分野別問題を繰り返し解いておくことです。教科書が終わってからまとめて問題演習を行うのではなく、終わった分野から問題演習をこまめに行いましょう。これが現役生の戦略です。シラバスを参考に、夏休みまでの学習計画を立て、実行していきましょう。

(3) 自分の受験しようとしている大学について具体的に確認をしておく

これからの一年間、学習とともに大切なのは、志望校の最終決定および受験にあたっての諸手続きの確認の二点です。

年間の進路指導スケジュールを保護者とともによく確認し、大体の受験計画が決まり次第、昨年度のデータに基づいて自分の受験しようとしている全大学の・出願期間（WEB出願は早めに）・試験日・受験科目・合格後の手続き（入学金・授業料等の支払期間・費用は「進路指導資料」最終ページ参照）について、書き出して見ましょう。

(4) 第一志望をあきらめない

現役受験生は、努力すれば本番直前（3月の後期試験）まで、とことん実力を伸ばすことができます。第一志望は絶対にあきらめずに取り組みましょう。（秋の模擬試験のD判定は現役生徒は気にしない）

国公立大学が第一志望なら、是非とも後期試験も視野に入れてください。後期試験は、見かけの倍率（出願時の倍率）と実質倍率に大きな隔たりがあります。理由、前期試験で合格している人は出願したけれど受験しないためです。前期試験とは、大学入学共通テストと個別試験の配点比率の違いや面接重視など、受験方式の違いはありますが、必ず受験計画に織り込みましょう。

(5) 学校の補習や講習を有効に活用する

高校3年生の夏休みの時期には、受験を想定した講習が毎年5月初旬に発表されます。学校で行われる講習は是非有効に活用してください。また、本校の先生方は皆さんが希望すれば、さらに別の補習を行って下さる方が大勢います。自分から積極的に先生方に相談しましょう。

大学入学共通テストが大きな関門であるためにそれにだけに目がいつている人も多いと思います。しかし、大学入学共通テストはあくまでも試験の一つでしかありません。国公立はそれぞれが独自の個別試験を行います。私立大学では、国公立大学にはない、個性的な内容の試験を課している大学もあります。これらの対応としては、進路室にたくさんある大学別・学部別の過去問が有効です。第1志望の過去問題は少なくとも過去6年分以上解きましょう。模擬試験ではわからない、1月の大学入学共通テストの先にある、大学独自の2月から始まる私立大学、2月下旬から始まる国公立大学の個別試験があることを想定し、受験準備を進めてください。

(6) 健康に注意して生活のリズムを保つ

受験勉強とは夜寝ずに勉強することだと勘違いしている人がいます。それが間違いだということを皆さんはよく分かっていると思います。睡眠は体や脳を休めると同時に、記憶したことを温存する役割があることが最近の研究で明らかになっています。昼間に眠気が襲ってくるならば、睡眠不足です。睡眠不足は生産性を低下させる要因になるので、昼間に眠気が襲ってくる人は、就寝前にだらだらスマホを見ると、睡眠の質が落ちてしまいます。眠気を我慢しながら勉強するのであれば、さっさと寝た方がよっぽど良いのです。睡眠中は直前の学習内容が頭に残るので、暗記ものは睡眠前と起床直後に同じものを覚えると暗記効果が上がります。

受験は一発勝負です。毎日コツコツ努力した上で、試験当日に努力の結果を出した人が評価されるのです。そのためにも、毎日きちんと登校し、生活のリズムを保つことが何より大切です。目標を達成した先輩たちの例を見ても明らかです。

受験シーズンの冬はカゼ・インフルエンザが流行するので外出後の手洗い・うがいの習慣必須です。

皆さんの、希望に満ちた未来へのあゆみを応援しています。

3年間を見通した進路指導の概要

	4年	5年	6年
重点目標	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活への適応と基本的な生活習慣の確立 学習の習慣化(予習・復習サイクルの徹底) 進路についての関心の喚起と自己適性の発見 	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事・諸活動への積極的参加と生活習慣の見直し 学習の習慣化と学力の向上、模擬試験の活用 進路志望の明確化、受験生0学期スタート 	<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣の見直し(学校・授業中心の生活) 自発的な学習と学力の蓄積 志望校対策 進路志望の実現
4月	<ul style="list-style-type: none"> 学力テスト オリエンテーションでの進路講演 外部教育機関進路講演 	<ul style="list-style-type: none"> 宿題テスト 保護者会(受験結果説明会) 	<ul style="list-style-type: none"> 校内模試 保護者会(受験結果説明会・推薦入試について)
5月	<ul style="list-style-type: none"> 進路検討会(受験結果説明会) 入学時意識調査 	<ul style="list-style-type: none"> 進路検討会(受験結果説明会) 	<ul style="list-style-type: none"> 進路検討会(受験結果説明会) 大学入試過去問利用法の集会
6月	<ul style="list-style-type: none"> 保護者会(進路資料配布・説明) 外部模試(希望者・駿台) 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者会(進路資料配布・説明) 学年検討会 外部模試(希望者・駿台) 模試の活用法集会 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者会(進路資料配布・説明) 私立難関大対策集会 学年検討会 外部模試(希望者・東大・難関大レベル模試) 外部模試(全員・ベネッセ:マーク模試)
7月	<ul style="list-style-type: none"> 夏期休業中の学習計画指導 外部模試(全員・ベネッセ) 模試の活用法集会 	<ul style="list-style-type: none"> 夏期休業中の学習計画指導 外部模試(全員・ベネッセ) 大学教職員による大学説明会(約30大学参加) 保護者会(進路資料配布・説明) 	<ul style="list-style-type: none"> 夏期休業中の学習計画指導 外部模試(全員・ベネッセ:記述模試) 夏期講習 入試要項発表
8月	<ul style="list-style-type: none"> 夏期講習 保護者面談 オープンキャンパスレポート 	<ul style="list-style-type: none"> 勉強合宿(4泊5日) 夏期講習 オープンキャンパスレポート 	<ul style="list-style-type: none"> 夏期講習 保護者面談 外部模試(希望者)
9月	<ul style="list-style-type: none"> 宿題テスト 5年時科目選択指導 5年時科目選択予備調査 保護者会(進路資料配布・模試の活用) 	<ul style="list-style-type: none"> 宿題テスト 6年時科目選択教科別説明 6年時科目選択予備調査票配布 	<ul style="list-style-type: none"> 大学入学共通テスト受験説明会 外部模試(全員・ベネッセ駿台:マーク模試) 外部模試(希望者・東大・難関大レベル模試) 保護者会(進路資料配布・受験の心得) 指定校及び一般推薦説明会
10月	<ul style="list-style-type: none"> 進路希望調査 外部模試(全員・ベネッセ) 外部模試(希望者・駿台) 中だるみ防止集会 学年検討会 	<ul style="list-style-type: none"> 進路希望調査 6年科目選択予備調査 6年科目選択指導 外部模試(希望者・駿台) 	<ul style="list-style-type: none"> 大学入学共通テスト願書提出 外部模試(全員・ベネッセ駿台:記述模試) インフルエンザ対策・食事法・学年集会 面接対策指導開始 入試に向けた模試の活用法集会
11月	<ul style="list-style-type: none"> 5年科目選択指導 外部模試(全員・ベネッセ:3教科) 学年検討会 	<ul style="list-style-type: none"> 6年科目選択本調査 外部模試(全員・ベネッセ:5教科) 	<ul style="list-style-type: none"> 外部模試(全員・ベネッセ駿台:マーク模試) 外部模試(希望者・駿台:東大入試実践模試) 保護者面談(受験校決定)
12月	<ul style="list-style-type: none"> 冬期休業中の学習計画指導 	<ul style="list-style-type: none"> 進路講演会(卒業生の社会人+大学教授) 受験生0学期集会 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者面談(受験校決定) 卒業研究指導 大学入学共通テスト対策説明会
1月	<ul style="list-style-type: none"> 宿題テスト 外部模試(全員・ベネッセ) 	<ul style="list-style-type: none"> 受験生0学期スタート(第一志望宣言) 宿題テスト 外部模試(全員外部会場・河合塾マーク) 外部模試(希望者・駿台:東大レベル模試) 大学入学共通テスト同日模試(希望者) 	<ul style="list-style-type: none"> 大学入試出願指導 大学入学共通テスト対策指導 大学入学共通テスト 大学入学共通テスト自己採点 国公立大学受験のための面談
2月	<ul style="list-style-type: none"> 外部模試(希望者・河合塾記述) 保護者会(外部教育機関の利用法) 	<ul style="list-style-type: none"> 外部模試(希望者・河合塾記述) 	<ul style="list-style-type: none"> 国公立個別試験対策指導・私大試験対策指導 卒業研究完成
3月	<ul style="list-style-type: none"> 春期休業中の学習計画指導 大学・学部・学科ガイダンス 	<ul style="list-style-type: none"> 卒業生による進路懇談会 春期休業中の学習計画指導 	<ul style="list-style-type: none"> 国公立個別試験対策後期指導・私大試験対策指導 個別相談

* 進路指導の予定は、変更することがあります。

国語科

I 国語科の学習目標

- (1) 言語能力を高めることによって、思考力を伸ばすとともに心情を豊かにする。
- (2) 文章表現の読解を通して、様々な思想・人物像に触れ、自己の考えを確立し、自己の生き方について考える態度を育成する。
- (3) 優れた国語表現を学ぶとともに、自己の目で確かに対象を捉え、それを国語で適切に表現し伝達できるようにする。
- (4) 古典を読む能力を身につけるとともに、日本文化の特質を理解し、現代社会を担う者としての良識を養う。
- (5) 古典に描かれた世界を鑑賞することによって、ものの見方、感じ方、考え方を広くする。

II 国語科の3年間の科目構成と学習内容

4 年	国語総合（必修） 計4単位		
	現代文2時間	古典2時間	
	1 言語能力を養い、文章読解力の向上を目指し、教科書の文章を中心に学習する。 2 評論、小説、詩歌、随想など様々な分野の作品を学習する。 3 言語事項として、識字能力の向上を目指し、補助教材を用いて学習する。	1 古文・漢文に親しみ、読解する能力を身につける。 2 古文領域では、説話、日記・紀行、物語、軍記、随筆、和歌など様々な分野の代表的な作品を学習する。 3 漢文領域では、故事成語、唐詩、史話、儒家思想、説話などの作品を学習する。 4 文法事項として、歴史的仮名遣い・品詞の分類・用言の活用・助動詞・助詞の一部・敬語法の理解までを学習する。 5 訓読の基礎から始め、訓読のきまり全般を、補助教材を用いて学習する。さらに、重要な句法を学習する。	
5 年	現代文（必修）2単位	古典B（必修） 文系4単位（古文2単位 漢文2単位） 理系2単位	
	1 言語能力を高め、文章読解力をさらに高めるために、教科書の文章を中心に学習する。 2 評論、小説、詩歌、随想など様々な分野の文学作品を学習する。長期休業期間を利用して、長編作品の読解・鑑賞の学習を行う。 3 言語事項として、大学入試にも対応する現代語の重要知識を補助教材を用いての習得する。 4 近現代文学史の知識を、補助教材を用い、小テストなどを活用して、習得する。	1 古文に描かれている内容を的確に捉える能力を身につける。 2 説話、随筆、歴史物語、日記、物語、俳文・俳論など様々な分野の作品を学習する。 3 古典文学史の知識を、補助教材を用い、小テストなどを活用して、習得する。 4 文法事項として、用言の活用・助動詞の用法・助詞の用法・敬語法について習熟する。	
6 年	現代文B（必修）2単位	古典B（必修）文系 3単位 （古文2単位 漢文1単位） 理系 2単位	国語I A・B（自由選択） 文系・理系 2単位
	1 言語能力を高め、文章読解力をさらに高めるために、教科書の文章を学習する。 2 問題解決能力の向上を目指して、共通テスト及びセンター試験過去問題の演習を行う。	1 古文・漢文とも、文法・句法に留意して読解能力の向上を目指す。 2 古文・漢文とも、問題解決能力の向上を目指して、センター試験過去問題の演習を行う。 3 古文単語・漢文語彙を正確に理解するため、補助教材を用いて学習する。	国公立二次入試に対応する「現代文」「古文」「漢文」の問題演習を行う。
			国語II A・B（自由選択） 文系 2単位
			私大入試に対応する「現代文」「古文」「漢文」の問題演習を行う。

教科名 国語科
 科目名 現代文B
 対象 5学年 全クラス

I 学習到達目標

- 1 現代文の学習を通して、思考能力を伸ばすとともに心情を豊かにし、自己の生き方について考える態度を育成すること。
- 2 近現代の諸作品の的確な読解を通して言語能力を高め、文章読解力をさらに高めること。
- 3 1学年次の漢字と語句の学習に引き続いて、大学入試問題解決に必要な現代語の重要知識を理解、習得すること。
- 4 来年度の大学入試共通テストの現代文の問題で、好成績が修められるような読解力を身につけること。

II 授業の進め方（授業形態等）

- 1 2単位時間の学習。
- 2 予習中心の授業を行う。（日常的に小テストやノート提出、予習課題等を実施する。）
- 3 補助教材については、小テストの実施、及び定期考査・宿題テストの範囲に含めることによって学習する。

III 教科書・補助教材

教科書 筑摩書房「現代文B」
 補助教材 Z会「現代文 キーワード読解」、大修館書店「国語便覧」、いっずな書店「大学入試漢字TOP200」

IV 学習計画

期	月	学 習 内 容			授業時数	備考
		考 査	「教科書」による学習内容	「キーワード・漢字」による学習内容		
一 学 期	春休み 宿 題		別途指示	別途指示		
	4	1学期 中 間 考 査	「地図の想像力」【5時間】 (p18~25)	キ 第2章「科学」 (p56~81)	14	
	5		小説(1)「山月記」【9時間】 (p34~47)	漢 p6~35		
	5	1学期 期 末 考 査	評論(2)「ことばがつくる女と男」 【4時間】 (p56~62)	キ 第3章「言語」 (p82~101)	14	
	6		評論(2)「資源はなぜ枯渇するのか」 【4時間】 (p26~33) 詩歌「小諸なる古城のほとり」【2時間】 「永訣の朝」【2時間】 (p72~81)	漢 p38~57		
	7		短歌【2時間】 (p82~85)			
	夏休み 宿 題	宿 題 テ ス ト	別途指示	キ 第4章「文化・宗教」		
二 学 期	9	2学期 中 間 考 査	評論(3)「記号論と生のリアリティ」 【5時間】 (p93~100) 評論(3)「風評というリスク」 【4時間】 (p86~92) 評論(4)「変貌する聖女」 【5時間】 (p130~137)	キ 第5章「哲学・心理」 (p130~157) 漢 p94~113	15	
	10		近現代文学史【1時間】 (p474~479)			
	10	2学期 期 末 考 査	小説(3)「こころ」 【11時間】 (p152~181)	キ 第6章 漢 p114~133	15	
	11		評論(4)「広告の形而上学」 【4時間】 (p139~144)			
三 学 期	12					
	冬休み 宿 題	宿 題 テ ス ト	別途指示	キ 第7章「現代社会」 (p192~217) 漢 p134~141		
	1	3学期 学 年 末 考 査	評論(5)「メディアと倫理」 【5時間】 (p208~)	キ 第二部「頻出テーマ編」 (p220~261)	20	
	2		評論(5)「『である』ことと『する』こと」 【9時間】 (p216~)	漢 p141~165		
	3		小説(3)「のんのんばあと妖怪たち」 【6時間】 (p182~191)			
					計 78 (2単位)	
評 価	各学期定期考査に平常点（課題の提出及び宿題テスト・ノート提出・小テスト等）を加味したものを評価の対象とする。 なお、平常点の中に「関心・意欲・態度」「思考」「知識・理解」「表現」の観点別評価を含むものとする。 各学期10段階評価を行い、学年末に5段階の評定を行う。					

教科名 国語科
 科目名 古典B (古文)
 対象 5学年 文系クラス

I 学習到達目標

- 1 古文の学習を通して、日本文化の特質について考えを深めること。
- 2 古文の諸作品に描かれている内容を、的確に捉える能力を身につけること。
- 3 日本文学史・古文単語の知識を習得すること。
- 4 1学年次の学習に引き継ぎ、古典文法全般に習熟すること。
- 5 来年度の大学入試センター試験古文の問題で、好成績が修められるような読解力を身につけること。

II 授業の進め方 (授業形態等)

- 1 古典4単位の内の2単位時間の学習。(評定は漢文との合算となる。)
- 2 予習中心の授業を行う。(日常的に小テストやノート提出、予習課題等を実施する。)
- 3 補助教材については、小テストの実施、及び定期考査・宿題テストの範囲に含めることによって学習する。

III 教科書・補助教材

教科書 筑摩書房「古典B 古文編」
 補助教材 いいずな書店「わかる読める解ける古文単語330」、大修館書店「国語便覧」、尚文出版「これからの古典文法」

IV 学習計画

期	月	学 習 内 容			授業時数	備考
		考 査	教科書による学習内容	古文単語		
一 学 期	春休み	宿題	別途指示	別途指示		
	4	1学期 中間 考査	説話 「袴垂、保昌に会ふこと」【4時間】 (p8~10)	221~260	上代文学の流れ (便覧p82~83)	14
	5		物語一 伊勢物語「初冠」【4時間】 (p14~28) 「狩りの使ひ」【5時間】 「つひにゆく」【1時間】			
	5	1学期 期 末 考 査	随筆一 枕草子「野分のまたの日こそ」【2時間】 (p34~42) 「すさまじきもの」【3時間】 「二月つごもりころに」【3時間】	261~300	中古文学の流れ1 (便覧p84~85) 含む関連頁	14
	6		日記 更級日記「継母との別れ」【2時間】 「源氏の五十余巻」【3時間】 (p66~70)			
	7		日記 蜻蛉日記「嘆きつつ」【3時間】 (p71~72)			
二 学 期	夏休み	宿題 テスト	別途指示	301~330	中古文学の流れ2 (便覧p86~87) 含む関連頁	
	9	2学期 中間 考査	物語三 平家物語「能登殿の最期」【8時間】 (p107~111)	1~100	中世文学の流れ1 (便覧p88~89) 含む関連頁	15
	10		随筆二 徒然草「これも仁和寺の法師」【3時間】 方丈記「養和の飢饉」【4時間】 (p80~89)			
	10	2学期 期 末 考 査	物語三 大鏡「雲林院にて」【7時間】 (p92~94)	101~200	中世文学の流れ2 (便覧p90~91) 含む関連頁	15
	11		「花山院の出家」【8時間】 (p95~98)			
	12					
三 学 期	冬休み	宿題 テスト	別途指示	201~220		
	1	3学期 学 年 末 考 査	物語二 源氏物語「光源氏の誕生」【7時間】 (p53~56)	221~330 (156~289)	近世文学の流れ (便覧p92~97) 含む関連頁	20
	2		源氏物語「若紫の君」【8時間】 (p60~65)			
	3		和歌・歌謡・俳諧【5時間】 (韻文総合) (p112~126)			
					計78 (2単位)	
評 価	各学期定期考査に平常点(課題の提出及び宿題テスト・ノート提出・小テスト等)を加味したものを評価の対象とする。 なお、平常点の中に「関心・意欲・態度」「思考」「知識・理解」「表現」の観点別評価を含むものとする。 古文として各学期10段階評価を行い、学年末には漢文と総合して、古典Bとしての5段階の評定を行う。					

教科名 国語科
 科目名 古典B (漢文)
 対象 5学年 文系クラス

I 学習到達目標

- 1 漢文の学習を通して、日本文学の特徴や中国文化との関係について考えを深めること。
- 2 漢文の諸作品に描かれている内容を、的確に捉える能力を身につけること。
- 3 1学年次の学習に引き継ぎ、漢文訓読に必須の事項に習熟すること。
- 4 大学入試センター試験の漢文の問題で、好成績が修められるような読解力を身につけること。

II 授業の進め方 (授業形態等)

- 1 古典4単位の内の2単位時間の学習。(評定は古文との合算となる。)
- 2 予習中心の授業を行う。(日常的に小テストやノート提出、予習課題等を実施する。)
- 3 補助教材については、小テストの実施、及び定期考査・宿題テストの範囲に含めることによって学習する。

III 教科書・補助教材

教科書 筑摩書房「古典B 漢文編」
 補助教材 尚文出版「新明説漢文」、「新明説漢文ノート」、大修館書店「国語便覧」

IV 学習計画

期	月	学 習 内 容		授業時数	備考
		考 査	「教科書」による学習内容		
一 学 期	春休み	宿題 テスト	別途指示する		
	4	1学期 中間 考査	故事 P8~13 「晏子之御」【4時間】 「病入膏肓」【4時間】 「先徒隗始」【6時間】	第二章句法編 1 第三章用字編 1~4	14
	6	1学期 期末 考査	文章「桃花源の記」【8時間】 p16~19 漢詩 「登鸛鵲楼」【3時間】 「登高」【3時間】 p24~31	第二章句法編 2 第三章用字編 5~6	14
	7				
二 学 期	夏休み	宿題 テスト	別途指示する	第三章用字編 7~8	
	9	2学期 中間 考査	史伝 P 34~39 「鴻門之会」【14時間】 [コラム]中国の史書【1時間】 P 45	第二章句法編 3 第三章用字編 9	15
	10	2学期 期末 考査	史伝 P 40~44 「四面楚歌」【10時間】 小説 P 46~48 「壳鬼」【5時間】	第二章句法編 4~7 第三章用字編 10~11	15
	11 12				
三 学 期	冬休み	宿題 テスト	別途指示する	第三章用字編 12	
	1	3学期 学年末 考査	小説「白亀」【5時間】 P 52~53 思想 P 71~77 「孟子」【7時間】 「荀子」【7時間】 [コラム]性善説と性悪説【7時間】 P 78	第二章句法編 8~12 第三章用字編 12	20
	2				
	3				
				計 78 (2単位)	
評 価	各学期定期考査に平常点(宿題の提出及び宿題テスト・ノート提出・小テスト等)を加味したものを評価の対象とする。 なお平常点の中に「関心・意欲・態度」「思考」「知識・理解」「表現」の観点別の評価を含むものとする。 漢文として各学期10段階評価を行い、学年末には古文と総合して、古典Bとしての5段階の評定を行う。				

教科名 国語科
 科目名 古典B (古文)
 対象 5学年 理系クラス

I 学習到達目標

- 1 古文の学習を通して、日本文化の特質について考えを深めること。
- 2 古文の諸作品に描かれている内容を、的確に捉える能力を身につけること。
- 3 日本文学史・古文単語の知識を習得すること。
- 4 1学年次の学習に引き継ぎ、古典文法全般に習熟すること。
- 5 来年度の大学入試センター試験古文の問題で、好成績が修められるような読解力を身につけること。

II 授業の進め方 (授業形態等)

- 1 古典2単位の内の1単位時間の学習。(評定は漢文との合算となる。)
- 2 予習中心の授業を行う。(日常的に小テストやノート提出、予習課題等を実施する。)
- 3 補助教材については、小テストの実施、及び定期考査・宿題テストの範囲に含めることによって学習する。

III 教科書・補助教材

教科書 筑摩書房「古典B 古文編」
 補助教材 いいずな書店「わかる読める解ける古文単語330」、大修館書店「国語便覧」、尚文出版「これからの古典文法」

IV 学習計画

期	月	学 習 内 容			授業時数	備考
		考 査	教科書による学習内容	古文単語		
一 学 期	春休み 宿 題		別途指示	別途指示		
	4	1学期 中 間 考 査	説話 「袴垂、保昌に会ふこと」 【3時間】 (p8~10)	221~260	上代文学の流れ (便覧p82~83)	7
	5	物語一 伊勢物語「狩りの使ひ」 【4時間】 (p14~28)				
	5	1学期 期 末 考 査	随筆一 枕草子「野分のまたの日こそ」 【3時間】 「すさまじきもの」 【4時間】	261~300	中古文学の流れ1 (便覧p84~85) 含む関連頁	7
	6					
7	(p34~42)					
二 学 期	夏休み 宿 題 宿 題 テスト		別途指示	301~330	中古文学の流れ2 (便覧p86~87) 含む関連頁	
	9	2学期 中 間 考 査	物語三 平家物語「能登殿の最期」 【7時間】 (p107~111)	1~100	中世文学の流れ1 (便覧p88~89) 含む関連頁	7
	10					
	10	2学期 期 末 考 査	物語三 大鏡「花山院の出家」 【8時間】 (p95~98)	101~200	中世文学の流れ2 (便覧p90~91) 含む関連頁	8
	11					
12						
三 学 期	冬休み 宿 題 宿 題 テスト		別途指示	201~220		
	1	3学期 学 年 末 考 査	物語二 源氏物語「光源氏の誕生」 【4時間】 (p53~56)	221~330 (156~289)	近世文学の流れ (便覧p92~97) 含む関連頁	10
	2	源氏物語「若紫の君」 【6時間】 (p60~65)				
	3					
					計39 (1単位)	
評 価	各学期定期考査に平常点(課題の提出及び宿題テスト・ノート提出・小テスト等)を加味したものを評価の対象とする。 なお、平常点の中に「関心・意欲・態度」「思考」「知識・理解」「表現」の観点別評価を含むものとする。 古文として各学期10段階評価を行い、学年末には漢文と総合して、古典Bとしての5段階の評定を行う。					

教科名 国語科
 科目名 古典B (漢文)
 対象 5学年 理系クラス

I 学習到達目標

- 1 漢文の学習を通して、日本文学の特徴や中国文化との関係について考えを深めること。
- 2 漢文の諸作品に描かれている内容を、的確に捉える能力を身につけること。
- 3 1学年次の学習に引き継ぎ、漢文訓読に必須の事項に習熟すること。
- 4 大学入試センター試験の漢文の問題で、好成绩が修められるような読解力を身につけること。

II 授業の進め方 (授業形態等)

- 1 古典2単位の内の1単位時間の学習。(評定は古文との合算となる。)
- 2 予習中心の授業を行う。(日常的に小テストやノート提出、予習課題等を実施する。)
- 3 補助教材については、小テストの実施、及び定期考査・宿題テストの範囲に含めることによって学習する。

III 教科書・補助教材

教科書 筑摩書房「古典B 漢文編」
 補助教材 尚文出版「新明説漢文」、「新明説漢文ノート」、大修館書店「国語便覧」

IV 学習計画

期	月	学 習 内 容		授業時数	備考
		考 査	「教科書」による学習内容		
一 学 期	春休み 宿 題	宿 題 テスト	別途指示する		
	4	1 学期 中 間 考 査	故事 P 8～13 「晏子之御」【3時間】 「病入膏肓」【4時間】	第二章句法編 1 第三章用字編 1～4	7
	6	1 学期 期 末 考 査	文章「桃花源の記」【7時間】 p 16～19	第二章句法編 2 第三章用字編 5～6	7
	7	夏休み 宿 題	宿 題 テスト	別途指示する	
二 学 期	9	2 学期 中 間 考 査	史伝「鴻門之会」【7時間】 P 34～39	第二章句法編 3 第三章用字編 9	7
	10	2 学期 期 末 考 査	小説「売鬼」【4時間】 P 46～48 史伝「四面楚歌」【4時間】 P 40～44	第二章句法編 4～7 第三章用字編 10～11	8
	12	冬休み 宿 題	宿 題 テスト	別途指示する	
三 学 期	1	3 学期 学 年 末 考 査	小説「白亀」【5時間】 P 52～53 思想「孟子」「荀子」【4時間】 P 71～77 [コラム]性善説と性悪説【1時間】 P 78	第二章句法編 8～12 第三章用字編 12	10
	2				
	3				
				計 39 (1単位)	
評 価	各学期定期考査に平常点(課題の提出及び宿題テスト・ノート提出・小テスト等)を加味したものを評価の対象とする。 なお平常点の中に「関心・意欲・態度」「思考」「知識・理解」「表現」の観点別の評価を含むものとする。 漢文として各学期10段階評価を行い、学年末には古文と総合して、古典Bとしての5段階の評定を行う。				

地歴科

I 地歴科の学習目標

- (1) 我が国及び世界の形成の歴史的過程について理解と認識を深めさせる。
- (2) 我が国及び世界の生活と文化の地域的特色について理解と認識を深めさせる。
- (3) 地理や歴史を学習することを通して、国際社会に主体的に生きる力を養う。
- (4) 民主的、平和的な国家・社会の一員として、必要な自覚と資質を養う。

II 地歴科の3年間の科目構成と学習内容

4 年	地理 B 2単位（必修）					
	1 世界の自然環境の学習を通じて「自然地理学」の基礎を学ぶ。 2 世界で展開される様々な人文現象の学習を通じて、「人文地理学」の基礎を学ぶ。 3 世界を地域区分し各地域の特色を考察する「地誌学習」の基礎を学ぶ。					
5 年	世界史 B（共通） 2単位（必修）	日本史 B（共通） 2単位（必修）	世界史 B（選択者） 1単位（必選）	日本史 B（選択者） 1単位（必選）		
	1 世界の一体化を、科学技術や工業力の発展とともに捉え、各地域の相互関係を認識する。 2 ヨーロッパの市民革命やナショナリズムの展開とともに、植民地化されていくアジア・アフリカ諸地域の民族運動や今日の課題を考えさせる。 3 常に現代の世界情勢との関連性を視野に、社会科目全般の理解のための基礎的知識を身につけさせる。	1 開国(ペリーの来航)から太平洋戦争終結までを学習対象とする。 2 国際的な視野に立ち、多角的な視点をもって近現代史を学ぶ。 3 基礎的な知識を獲得すると共に歴史的思考力を培うことを目標とする。 4 流れとして日本史を把握できる力を養う。 5 特定のテーマを選び、重点的に学ぶ、主題学習を導入する。	1 帝国主義時代以降の世界について取り扱う。 2 二つの世界大戦について、その原因と、20世紀の歴史や現代にもたらした影響を学習する。 3 今日の世界状況を理解するために、冷戦構造や地域紛争の原因を理解し、また国際平和や環境問題にも関心をもたせる。	1 太平洋戦争後から現代までおよび、近現代の文化を学習対象とする。 2 多角的な視点から学習し、歴史の基礎的な知識を得るとともに、歴史的思考力を培う。 3 歴史的資料の読解を通じて歴史への関心高め、歴史が資料に基づいて構築されることを理解するとともに科学的なものの見方・考え方を身につける。		
6 年	地理 B 6単位(必選)	地理 B 2単位(自選)	世界史 B 6単位(必選)	世界史 B 2単位(自選)	日本史 B 6単位(必選)	日本史 B 2単位(自選)
	1 世界の自然環境と人間の生活・文化の関わりを学習する。 2 世界で展開される農業・工業などの産業の現状と地域的な差異を学習する。 3 地表面を様々な基準で区分し、その地域で展開される諸事象について総合的に考察する学習を行う。	1 世界で展開される諸問題について、その現状と要因を総合的に考察し、課題解決に向けての方法を地理的に学習する。 2 地表面を国家・州・大陸という基準で区分し、その地域で展開される諸事象について総合的に考察する学習を行う。 3 大学入試に対応できる実践力と応用力を養成する。	1 古代～中世史における、世界諸地域の国家の成立と、諸文明、またその相互の関係を学ぶ。 2 ヨーロッパ史と中国史を基本としながら、内陸アジア史や海域史の視点から、人とモノの交流だけでなく、技術や宗教・生活等を含めて考えさせる。 3 徹底的に基礎力をつける。	1 地歴科2科目目の選択者に対して、問題演習を通じて基礎的な知識を獲得すると共に歴史的思考力を培うことを目標とする。 2 共通テスト、大学入試に対応できる力を身につける	1 原始・古代から近世までを学習対象とする。 2 多角的な視点から学習し、歴史の基礎的な知識を得るとともに、歴史的思考力を培う。 3 テーマや流れとして日本史を把握する。 4 問題演習などによって、学習内容をまとめていく。 5 大学入試に対応できる力を身につける。	1 地歴科2科目目の選択者に対して、問題演習を通じて基礎的な知識を獲得すると共に歴史的思考力を培うことを目標とする。 2 共通テスト、大学入試に対応できる力を身につける。

※ 6年生の自由選択科目は受講希望者数によって変更があり得ます。

教科名 地歴科
 科目名 世界史B (必修2単位)
 対象 5学年 全員

I 学習到達目標

- 1 アジア諸国の繁栄とヨーロッパの近代化を背景に諸地域世界が結合し一体化する過程を、主権国家体制のあり方やヨーロッパにおける科学技術や工業力の発展を理解し各地域の相互関係を認識する。
- 2 ヨーロッパにおける市民革命・ナショナリズム・リベラリズムの展開を理解するとともに被支配、従属下に置かれていく地域の主体的な民族運動や今日的課題に関心を持たせる。
- 3 近現代史理解のための写真・地図・文献史料や映像資料をとりあげながら歴史を多面的に考察させる。

II 授業の進め方 (授業形態等)

- 1 授業プリントを基礎としながら資料集や用語集を使ったノートをつくり基本的な歴史事象や名辞を定着させる。
- 2 講義中心であるが、適宜発問・発表また質問の時間もとりながら進めていく。
- 3 史資料の読み取りや問いに対する論述に取り組むことで、世界史を科学的に考察する姿勢や表現力を養う。

III 教科書・補助教材

教科書	改訂版 詳説世界史B 山川出版社
補助教材	最新世界史図説タペストリー (帝国書院) 世界史B用語集 (山川出版社) 世界史Bマスター問題集 (山川出版社)

IV 学習計画

学 期	月	学 習 内 容		授業時数	備考
		考 査	「教科書」の学習内容		
一 学 期	春休み	宿 題			
	宿 題	テスト			
	4	1 学期	第8章 近代ヨーロッパの成立	タペストリー	
	5	中 間	1 ヨーロッパ世界の拡大 P201	P 154~164	3
	考 査	2 ルネサンス P205	世界史Bマスター問題集		4
		3 宗教改革 P209	P 83~91		3
		4 ヨーロッパ諸国の抗争と主権国家体制の形成 P213			3
	6	1 学期	第9章 近代ヨーロッパ世界の展開	タペストリー	
	期 末	考 査	1 重商主義と啓蒙専制主義 P223	P 165~177	3
	7		2 ヨーロッパ諸国の海外進出 P232	世界史Bマスター問題集	
			3 17~18世紀のヨーロッパの文化と社会 P236	P 92~99	
					3
二 学 期	夏休み	宿 題			
	宿 題	テスト			
	9	2 学期	第10章 近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立	タペストリー	
	10	中 間	1 産業革命 P241	P 180~191	3
	考 査	2 アメリカ独立革命 P245	世界史Bマスター問題集		3
		3 フランス革命とナポレオン P248	P 100~107		3
	10	2 学期	第11章 欧米における近代国民国家の発展	タペストリー	
	期 末	考 査	1 ウィーン体制の成立 P256	P 192~223	3
	11		2 ヨーロッパの再編 P263	世界史Bマスター問題集	
	12		3 南北アメリカの発展 P272	P 108~123	
			4 19世紀欧米の文化 P278		3
			第12章 アジア諸地域の動揺		4
			1 オスマン帝国支配の動揺と西アジア地域の変容 P283		
三 学 期	冬休み	宿 題			
	宿 題	テスト			
	1	3 学期	2 南アジア・東南アジアの植民地化 P287	タペストリー	
	2	学 年 末	3 東アジアの激動 P295	P 224~233	6
考 査		第13章 帝国主義とアジアの民族運動	世界史Bマスター問題集		6
		1 帝国主義と列強の展開 P308	P 124~140		
		2 世界分割と列強対立 P315			8
		3 アジア諸国の改革と民族運動 P356			
				計 78 (2単位)	
評 価	・各学期考查100点×5回 平常点〔小テスト・ノート、課題提出・授業に対する姿勢・出席状況〕を加味して評価を行う。 ・各学期 10段階評価を行い、学年末に5段階の評定を行う。				

教科名 地歴科
 科目名 世界史B（文系選択1単位）
 対象 5学年文系選択者

I 学習到達目標

- 1 第一次世界大戦と第二次世界大戦が国際秩序に大きな変化をもたらし、20世紀の変動の基点となったことを理解する。
- 2 第二次世界大戦後、米・ソを中心とした冷戦体制が成立し、東西両陣営に世界が分裂したことを理解する。
- 3 国際連合を中心とした戦後世界秩序の形成、第三世界諸地域の動向について理解する。
- 4 新たな地域紛争、経済格差や深刻化する貧困問題など、現代の諸地域の世界の情勢について、基礎的な知識を持つとともに、自ら課題を見つける態度を養う。
- 5 世界史全体を概観し、興味・関心を持った文明・文化、人物、歴史的事象、書籍等に関する主題を設定し、歴史的観点から資料を活用して探求し、レポートを作成・発表することで、歴史的思考力を培うとともに資料を活用し表現する技能を身につける。

II 授業の進め方（授業形態等）

- 1 5学年文系生徒を対象として1単位で授業を行う。
- 2 授業プリントを基礎としながら資料集や用語集を使ったノートをつくり基本的な歴史事象や名辞を定着させる。
- 3 レポート作成・発表等の活動を通して歴史的思考力を養う。

III 教科書・補助教材

教科書	改訂版 詳説世界史B 山川出版社
補助教材	最新世界史図説タペストリー（帝国書院） 世界史B用語集（山川出版社） 世界史Bマスター問題集（山川出版社）

IV 学習計画

学 期	月	学 習 内 容		授業時数	備考	
		考 査	「教科書」の学習内容			副教材・その他の学習内容
一 学 期	春休み	宿 題				
	宿 題	テス				
	4	1 学期	第13章 帝国主義とアジアの民族運動 帝国主義と列強間の展開 P308 世界分割と列強対立 P315 アジア諸地域の改革と民族運動 P321	タペストリー P 217～232 世界史Bマスター問題集 P 131～137	6	
	5	中 間 考 査				
一 学 期	6	1 学期	第14章 第一次世界大戦とロシア革命 第一次世界大戦とロシア革命 P331 ヴェルサイユ体制下の欧米諸国 P338 アジア・アフリカ地域の民族運動 P346 世界恐慌とファシズム諸国の侵略 P356 第二次世界大戦 P363	タペストリー P 234～259 世界史Bマスター問題集 P 141～159	9	
	7	期 末 考 査				
	夏休み	宿 題				
	宿 題	テス				
二 学 期	9	2 学期	第15章 冷戦と第三世界の形成 戦後世界秩序の形成とアジア諸地域の独立 P371 米ソ冷戦の激化と西欧・日本の経済復興 P379 第三世界の台頭と米・ソの歩み寄り P384 石油危機と世界経済の再編 P393	タペストリー P 260～270 世界史Bマスター問題集 P 162～174	7	
	10	中 間 考 査				
	10	2 学期	第16章 現在の世界 社会主義世界の変容とグローバリゼーション の進展 P397 途上国の民主化と独裁政権の動揺 P402 地域紛争の激化と深刻化する貧困 P405 現代文明の諸特徴 P410	タペストリー P 272～298 世界史Bマスター問題集 P 176～182	9	
	11	期 末 考 査				
三 学 期	12	宿 題				
	宿 題	テス				
	1	3 学期	概論 第1～7章 P10～197 レポート作成	タペストリー P 54～122 世界史Bマスター問題集 P 4～82	8	
	2	学 年 末 考 査				
三 学 期	3					
					計 39 (1単位)	
	評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・各学期考查100点×3回 平常点〔小テスト・ノート、課題提出・授業に対する姿勢・出席状況等〕を加味して評価を行う。 ・各学期10段階評価を行い、学年末に5段階の評定を行う。 				

教科名 地歴科
 科目名 日本史B（必修2単位）
 対象 5学年 全員

I 学習到達目標

- 1 開国（ペリー来航）から終戦までを学習の範囲とし、歴史の基礎的な知識を確実に身につける。
- 2 史資料の読み取りや問いに対する論述に取り組むことで、日本史を科学的に考察する姿勢や表現力を養う。
- 3 地理的・世界史的な分析を進めることで、日本と世界との関わりについて理解や考察を深める。

II 授業の進め方（授業形態等）

- 1 教科書に準じたプリントを中心に、プロジェクト資料や板書を併用しながら授業をすすめていく。
- 2 必要に応じて発問や課題、ノート提出などを求め、生徒の理解の定着を確認しつつ、授業を進めていく。

III 教科書・補助教材

教科書：『詳説 日本史B』（山川出版社）
 副教材：『新詳 日本史』（浜島書店）、『詳録 新日本史史料集成』（第一学習社）、『日本史B用語集』（山川出版社）、
 『日本史B一問一答』（東進ブックス）、『スピードマスター日本史問題集』（山川出版社）

IV 学習計画

学 期	月	学 習 内 容		授業時数	備考
		考 査	「教科書」の学習内容		
一 学 期	4	1 学期 中 間 考 査	第9章「近代国家の成立」 1節「開国と幕末の動乱」 2節「明治維新と富国強兵」 P250-275	『新詳 日本史』 P208-229	12
	5				
	6 7	1 学期 期 末 考 査	3節「立憲国家の成立と日清戦争」 4節「日露戦争と国際関係」 P276-298	P230-251	18
	夏休み		勉強合宿（大学入試共通テストにむけて）		
二 学 期	9	2 学期 中 間 考 査	5節「近代産業の発展」 第10章「二つの世界大戦とアジア」 1節「第一次世界大戦と日本」 P299-307, 318-324	P252-258, 266-273	14
	10				
	10 11 12	2 学期 期 末 考 査	2節「ワシントン体制」 4節「恐慌の時代」 P325-332,339-344	P274-278, 284-289	18
	冬休み				
三 学 期	1		5節「軍部の台頭」 6節「第二次世界大戦」 P345-368	P290-309	16
	2				
	3				
				計 78 (2単位)	
評 価		・各学期の定期考査得点の他に、授業の取り組み状況、課題の提出と内容、ノートの提出と内容、小テストの得点等を数値化して評価の対象とする。			

教科名 地歴科
 科目名 日本史B (文系選択1単位)
 対象 5 学年文系選択者

I 学習到達目標

- 1 戦後史および近現代の文化を学習範囲とし、歴史の基礎的な知識を確実に身につける。
- 2 史資料の読み取りや問に対する論述に取り組むことで、日本史を科学的に考察する姿勢や表現力を養う。
- 3 地理的・世界史的な分析を進めることで、日本と世界の関わりについて理解や考察を深める。

II 授業の進め方 (授業形態等)

- 1 教科書に準じたプリントを中心に、プロジェクト資料や板書を活用しながら授業を進めていく。
- 2 必要に応じて発問や課題、ノート提出などを求め、生徒の理解の定着を確認しつつ、授業を進めていく。
- 3 戦後史の学習が終了したのち、明治以降の文化について学習する。

III 教科書・補助教材

教科書 「詳説 日本史B」 山川出版社
 補助教材 「新詳 日本史」 浜島書店 「詳録 新日本史史料集成」 第一学習社 「日本史B用語集」 山川出版社
 「日本史B 一問一答」 東進ブックス 「スピードマスター日本史問題集」 山川出版社

IV 学習計画

学 期	月	学 習 内 容		授業時数	備考
		考 査	「教科書」の学習内容		
一 学 期	4		第11章 占領下の日本	「新詳 日本史」 P310-321	6
	5		第1節 戦後世界秩序の形成と初期占領政策 民主化政策と日本国憲法の制定 生活の混乱と大衆運動の高揚 P369-379		
	6	1 学期 期 末 考 査	第11章 占領下の日本 第2節 冷戦の開始と講和 冷戦体制と占領政策の転換 朝鮮戦争・講和と独立 安保条約	P322-325, P331	9
	7		第12章 高度成長の時代 第1節 高度成長の時代 冷戦構造の世界と独立後の日本 P379-388		
	夏休み		5年勉強合宿		
二 学 期	9		55年体制の成立と安保条約改定	P328-330 P332-334	7
	10		第2節 経済復興から高度成長へ 高度経済成長下の日本と大衆消費社会 P388-400		
	10	2 学期 期 末 考 査	高度成長のひずみ	P333 P336-343	9
	11		第13章 激動する世界と日本 第1節 経済大国への道 石油危機と高度成長の終焉 第2節冷戦の終結と日本社会の変容 55年体制の崩壊と平成不況下の日本 現代の諸課題 P400-415		
	冬休み 宿 題	宿 題 テ ス ト			
三 学 期	1	3 学期 学 年 末 考 査	明治の文化 P308-317 第9章第6節 近代文化の発達	P259-265 P279-283 P301、P306-307 P326-327 P335、P339	8
	2		大正・昭和初期の文化 P333-338 第10章第3節 市民生活の変容と大衆文化 昭和の文化 P357-358,P384-385,P397-400 戦時下の文化・占領期の文化・大衆消費社会		
				計 39 (1単位)	
評 価			・各学期定期考査の他に、授業の取り組み状況、課題の提出と内容、ノートの提出と内容、小テストの得点等を数値化して評価の対象とする。		

数学科

I 数学科の学習目標

- (1) 数学的活動を通して、数学における基本的な概念や原理・法則の体系的な理解を深める。
- (2) 事象を数学的に考察し表現する能力を高め、創造性の基礎を培う。
- (3) 数学のよさを認識し、それらを積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断する態度を育てる。

II 数学科の3年間の科目構成と学習内容

4年	数学Ⅰ（必修） 3単位		数学A（必修） 2単位		
	1 数を実数まで拡張する意義や、集合と命題に関する基本的な概念を理解できるようにする。式を多面的にみたり処理したりするとともに、一次不等式を事象の考察に活用できるようにする。 2 三角比の意味やその基本的な性質について理解し、三角比を用いた計量の考えの有用性を認識するとともに、それらを事象の考察に活用できるようにする。 3 二次関数とそのグラフについて理解し、二次関数を用いて数量関係や変化を表現することの有用性を認識すると共に、それらを事象の考察に活用できるようにする。 4 統計の基本的な考えを理解するとともに、それを用いてデータを整理・分析し傾向を把握できるようにする。	1 場合の数を求めるときの基本的な考え方や確率についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。 2 整数の性質についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。 3 平面図形や空間図形の性質についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。			
5年	数学Ⅱ（必修） 4単位		数学B（必修） 2単位		
	1 整式の乗法・除法及び分数式の四則計算について理解できるようにするとともに、等式や不等式が成り立つことを証明できるようにする。また、方程式についての理解を深め、数の範囲を複素数まで拡張して二次方程式を解くこと及び因数分解を利用して高次方程式を解くことができるようにする。 2 座標や式を用いて、直線や円などの基本的な平面図形の性質や関係を数学的に表現し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。 3 指数関数及び対数関数について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。 4 角の概念を一般角まで拡張して、三角関数及び三角関数の加法定理について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。 5 微分積分の考えについて理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。	1 簡単な数列とその和及び漸化式と数学的帰納法について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。 2 ベクトルの基本的な概念について理解し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。 3 確率変数とその分布統計的な推測について理解し、それらを不確定な事象の考察に活用できるようにする。			
6年	文系 数学α（自由選択） 2単位	文系 数学β（自由選択） 2単位	文系 数学γ（自由選択） 4単位	文理系 数学Ⅱ（必修） 5単位	理系 数学Ⅲ・数学Ⅲ演習（必修） 7単位 （数Ⅲ4＋数Ⅲ演習3）
	1 大学入学共通テストⅠAでの高得点を目指し、処理スピードを高め、解答力を養う。 2 演習を通して、既習分野における基礎基本を確立し、数学ⅠAの体系的理解を目指す。 3 大学入試問題と多様な解法に触れることで、分野横断的に考察する力と解決する力を養う。	1 大学入学共通テストⅠAⅡBでの高得点を目指し、処理スピードを高め、解答力を養う。 2 演習を通して、既習分野における基礎基本を確立し、数学ⅠAⅡBの体系的理解を目指す。 3 大学入試問題と多様な解法に触れることで、分野横断的に考察する力と解決する力を養う。	1 難関国立大学2次試験等に対応できる、高い記述力と解答力を身に付ける。 2 重要例題から発展問題までの演習を通して、高校数学の体系的理解を目指す。 3 大学入試問題と多様な解法に触れることで、分野横断的に考察する力と解決する力を養う。 4 高い基礎力に基づいた幅広い応用力と発想力を養い、論理的思考力の更なる向上を目指す。	1 大学入学共通テストⅠAⅡBでの高得点を目指し、処理スピードを高め、解答力を養う。 2 国公立大学2次試験に対応した、高い記述力と解答力を身に付ける。 3 大学入試問題と多様な解法に触れることで、分野横断的に考察する力と解決する力を養う。	1 平面上の曲線が様々な式で表されること及び複素数平面について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。 2 数列や関数値の極限の概念を理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。 3 微分法の理解を深めるとともに、その有用性を認識し、事象の考察に活用できるようにする。 4 積分法の理解を深めるとともに、その有用性を認識し、事象の考察に活用できるようにする。

* 6年生の自由選択科目は受講希望者数によって変更があり得ます。

教科名 数学科
 科目名 **数学Ⅱ**
 対象 5学年全員

I 学習到達目標

- 1 いろいろな式及び微分積分の考えについて理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を目標とする。
- 2 様々な事象を数学的に考察し、処理する能力を伸ばすと共に、それらを活用する能力を身に付ける。

II 授業の進め方（授業形態等）

- 1 予習、復習を要する授業を実施する。
- 2 授業は「基礎知識」「例題」の解説と「問」の解法発表がしめる。復習として、問題集等の練習問題を反復して解く。
- 3 確認テストによる理解度チェック、プリント、ノート、課題提出による取組状況確認を定期的に行う。

III 教科書・補助教材

教科書 「改訂版 数学Ⅱ」数研出版
 副教材 「改訂版 教科書傍用 サクシード 数学Ⅱ+B」数研出版
 「改訂版 リンク数学演習Ⅰ・A+Ⅱ・B受験編 b」数研出版
 「増補改訂版 チャート式基礎からの数学Ⅱ+B」数研出版 「ウィナー2 数学Ⅰ・A・Ⅱ・B」文英堂

IV 学習計画

学 期	月	学 習 内 容		授業時数	備考		
		考 査	「教科書」の学習内容			副教材・その他の学習内容	
一 学 期	春休み	宿題	スタディサポート				
	4	宿題		1			
	5	中間 考 査	第1章 式と証明 P6~36 第2章 複素数と方程式 P38~63 剰余の定理と因数定理、高次方程式 第3章 図形と方程式 第1節 点と直線 P66~85 第2節 円 P86~100	サクシード 数学Ⅱ+B P6~20 P21~34 P35~47	12		
	6	1学期 期 末 考 査	第3節 軌跡と領域 P101~114 第4章 三角関数 第1節 三角関数 P116~137 第2節 加法定理 P138~154 第5章 指数関数と対数関数 P156~165	サクシード 数学Ⅱ+B P48~55 P56~76 P77~82	30		
	7	宿題	夏休み宿題、今までの全範囲より出題	チャート式の指定範囲	1		
二 学 期	9	2学期 中 間 考 査	第5章 指数関数と対数関数 P156~180 第6章 微分法と積分法 第1節 微分係数と導関数 P182~194 第2節 導関数の応用 P195~210	サクシード 数学Ⅱ+B P83~88 P89~101	28		
	10	2学期 期 末 考 査	第3節 積分法 P211~235	サクシード 数学Ⅱ+B P102~112	28		
	11	考 査	【文系】 入試問題の基本 ウィナー2	【理系】 第3章 関数 分数関数、無理関数 逆数関数と合成関数			
	12	考 査					
	冬休み	宿題	冬休み宿題、2学期の復習範囲より出題	チャート式の指定範囲	1		
三 学 期	1	3学期 学 年 末 考 査	【文系】 入試問題の基本 ウィナー2	【理系】 第4章 極限 第1節 数列の極限 第2節 関数の極限	ウィナー2 数学Ⅰ・A・Ⅱ・B	40	
	2	考 査					
	3	考 査					
					計 156 (4単位)		
評 価	1 評価評定について ・各学期に10段階で評価する ・学年末に5段階で評定する 2 評価評定の対象 ・定期考査（各100点） ・宿題テスト（50点換算） ・平常点（ノート・プリント提出状況、学期中の宿題、長期休業中の宿題、授業態度等）						

教科名 数学科
 科目名 **数学B**
 対象 5学年全員

I 学習到達目標

- 1 数列とベクトルについて基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。
- 2 事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する能力を育てる。

II 授業の進め方（授業形態等）

- 1 予習、復習を要する授業を実施する。
- 2 授業は「例題」の解説と「問」の解法がしめる。復習として、問題集等の練習問題を反復して解く。
- 3 確認テストによる理解度チェック、プリント、課題提出による取組状況確認を定期的に行う。

III 教科書・補助教材

教科書 「改訂版 数学B」 数研出版
 副教材 「改訂版 教科書傍用 サクシード 数学Ⅱ+B」 数研出版
 「改訂版 リンク数学演習Ⅰ・A+Ⅱ・B受験編 b」 数研出版
 「増補改訂版 チャート式基礎からの数学Ⅱ+B」 数研出版 「ウィナー2 数学Ⅰ・A・Ⅱ・B」 文英堂

IV 学習計画

学 期	月	学 習 内 容		授業時数	備考		
		考 査	「教科書」の学習内容			副教材・その他の学習内容	
一 学 期	春休み	宿 題 テ ス ト	スタディサポート		1		
	4	1 学 期 中 間 考 査	第1章 平面上のベクトル 第1節 平面上のベクトルとその演算 平面上のベクトル P6~7 ベクトルの演算 P8~14 ベクトルの成分 P15~19	サクシード 数学Ⅱ+B P118~123	5		
	6		ベクトルの内積 P20~26 第2節 ベクトルと平面図形 位置ベクトル P29~32 ベクトルと図形 P33~35 ベクトル方程式 P36~43	サクシード 数学Ⅱ+B P124~135	18		
	7		第2章 空間のベクトル 空間の座標 P50~53 空間のベクトル P54~56	サクシード 数学Ⅱ+B P138~139			
夏休み	宿 題 テ ス ト	夏休み宿題、今までの全範囲より出題	チャート式の指定範囲	1			
二 学 期	9	2 学 期 中 間 考 査	ベクトルの成分 P57~59 ベクトルの内積 P60~61 位置ベクトル P62~63 ベクトルと図形 P64~69 座標空間における図形 P70~73	サクシード 数学Ⅱ+B P140~149	18		
	10		第3章 数列 第1節 数列とその和 数列 P80~81 等差数列とその和 P82~87 等比数列とその和 P88~91 和の記号Σ P93~97 階差数列 P98~100	サクシード 数学Ⅱ+B P154~161		18	
	11	2 学 期 期 末 考 査					
	冬休み	宿 題 テ ス ト	冬休み宿題、今までの全範囲より出題	チャート式の指定範囲	1		
三 学 期	1	3 学 期 学 年 末 考 査	いろいろな数列の和 P101~103 第2節 数学的帰納法 漸化式と数列 P105~108 数学的帰納法 P113~117	サクシード 数学Ⅱ+B P162~169	16		
	2						
	3						
					計 78 (2単位)		
評 価	1 評価評定について ・各学期に10段階で評価する ・学年末に5段階で評定する 2 評価評定の対象 ・定期考査（各100点） ・宿題テスト（50点換算） ・平常点（ノート・プリント提出状況、学期中の宿題、長期休業中の宿題、授業態度等）						

理科

I 理科の学習目標

- (1) 目的意識をもって実験・観察などを行い、探究心を高め、自然を主体的に学習する態度を育成する。
- (2) 実験・観察を通して探究活動を行い、科学的に自然を調べる方法を身につけ、問題解決能力を育成する。
- (3) 自然の事物・現象に見られる原理・法則等を理解し、自然について分析的、総合的に考察する能力を養い、科学的な自然観を育成する。
- (4) 科学や自然と人間とのかかわりの視点に立ち、自然を総合的にみる見方や、科学的なものの見方を育成する。

II 理科の3年間の科目構成と学習内容

4 年	物理基礎 必修 2単位	生物基礎 必修 2単位		
		<p>1 「生物と遺伝子」では、細胞の構造と機能の概要や、DNAの構造と遺伝子の発現の仕組みを理解する。</p> <p>2 「生物の体内環境の維持」では、恒常性の仕組みを理解し、体内環境の維持と免疫・健康との関係について学ぶ。</p> <p>3 「生物の多様性と生態系」では、植生の多様性と生態系の成り立ちを理解しその保全の重要性を学ぶ。</p>		
5 年	物理 理系必修 4単位	生物 理系必修 4単位	化学基礎 必修選択 3単位	地学基礎 必修選択 3単位
	<p>物理的な事物・現象についての観察、実験などを行い、自然に対する関心や探求心を高め、物理学的に探求する能力と態度を育むと共に、基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を身につける。</p> <p>ここでは、物理基礎の応用として、平面内の運動、剛体、運動量、円運動・単振動・惑星の運動、熱と気体、電磁気について学ぶ。</p>	<p>生物学な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識を持って観察・実験などを行い、生物学的に探求する態度を育てる。生物の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、生命現象を科学的にとらえる自然観を育成する。</p> <p>具体的には「生命現象と物質」、「遺伝子の働き」、「生殖と発生」、「生物の環境応答」、「生態と環境」の分野について学習する。</p>	<p>科学的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識を持って観察・実験などを行い、科学的に探求する態度を育てる。化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。</p> <p>具体的には、「物質の状態」および「物質の変化」を学習する。</p>	<p>1 「固体地球とその変動」 プレートの分布と運動及びプレート運動に伴う大地形の形成、火山活動と地震の発生のしくみについて理解する。</p> <p>2 「移り変わる地球」 地層が形成される仕組みと地質構造、古生物の変遷と地球環境の変化について理解する。</p> <p>3 「大気・海洋と気象」 大気の大循環と海水の運動及びそれらによる地球規模の熱の輸送について理解し、日本で見られる季節の気象について学ぶ。</p> <p>4 「宇宙の構成」 実験・観察を通して宇宙と惑星としての地球の特徴を理解する。</p> <p>5 「自然との共生」 地球環境の変化を科学的に考察する。</p>
6 年	必修選択 物理演習 理系 2単位	必修選択 生物 理系で5年次に生物を 履修しなかった人向け 4単位	化学 理系・文理系必選 6単位	地学 理系・文理系 必選6単位
	<p>5年次の学習内容に引き続き、物理的な事物・現象についての観察、実験などを行い、自然に対する関心や探求心を高め、物理学的に探求する能力と態度を育むと共に、基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を身につける。ここでは、電磁気、原子について学ぶ。</p> <p style="text-align: center;">自由選択 物理 理系 2単位</p> <p>私大・国公立試験の入試問題演習等の練習・解説を通して、理工系大学進学に対応した力を養成する。</p> <p style="text-align: center;">自選 物理基礎 文理系・文系 1単位</p> <p>4年次に学習した『物理基礎』の学習内容を補填し、かつ、センター試験『物理基礎』に対応した演習を行う。</p>	<p>内容は5年次の生物と同様。</p> <p style="text-align: center;">必修選択 生物演習 2単位</p> <p>5年次の学習内容に引き続き、5編「生態と環境」6編「生物の進化と系統」の分野の項目についての復習と、大学入学共通テスト、国公立個別試験、私大入試に対応し、副教材などを活用した問題演習を行う。</p> <p style="text-align: center;">自由選択 生物 理系 1単位</p> <p>4単位の生物の学習内容と合わせ、「生物の進化と系統」の分野の項目についての学習と、大学入学共通テスト、国公立個別試験、私大入試に対応し、副教材などを活用した問題演習を行う。</p> <p style="text-align: center;">自由選択 生物基礎 文系・理系 1単位</p> <p>大学入学共通テストに対応し、副教材などを活用した問題演習を行う。</p>	<p>1 化学平衡状態の存在および法則性、種々の条件変化によるその移動について理解する。</p> <p>2 無機物質について周期表を基に、金属・非金属ごとに単体や化合物の性質を広く学ぶ。</p> <p>3 生体を構成する有機化合物にはどのようなものがあるか、また組成や構造がその性質とどのように関連しているかを理解する。</p> <p>4 合成高分子化合物について、その組成や構造と性質の関連性を理解し、化学的な理解を深める。</p> <p>『化学』全範囲終了後は、センター試験・国公立二次試験等に対応できるように、問題演習を行う。</p> <p style="text-align: center;">自由選択 化学 理系 2単位</p> <p>私大・国公立試験の入試問題演習等の練習・解説を通して、理工系大学進学に対応した力を養成する。</p> <p style="text-align: center;">自選 化学基礎 文理系・文系 1単位</p> <p>センター試験『化学基礎』に対応し、副教材などを活用した問題演習を行う。</p>	<p>(1)地球の概観 地球の形状や内部構造を観察、実験などを通して探究し、地球の概観を理解する。</p> <p>(2)地球の活動と歴史 地球に見られる様々な事物・現象を観察、実験などを通して探究し、地球の活動と歴史を理解する。</p> <p>(3)地球の大気と海洋 地球の大気と海洋の事物・現象を観察、実験などを通して探究し、大気と海洋の構造や運動を理解する。</p> <p>(4)宇宙の構造 宇宙に関する事物・現象を観察、実験などを通して探究し、宇宙の構造について理解する。</p> <p>※理系センター試験と二次試験向けの演習も行う。</p> <p style="text-align: center;">自選 地学基礎 文理系・文系 1単位</p> <p>5年次の学習で不十分なところを補充するとともに、各単元の重要事項を整理し、文系センター試験をターゲットとした問題演習を行う。</p>

II 理科の3年間の科目構成と学習内容

科名 理科

科目名 **物理（必修選択）**

対象 5学年 選択者

I 学習到達目標

<ol style="list-style-type: none"> 1. 力学の性質を理解し、剛体や衝突の現象を理解する。 2. 波の性質を理解し、音や光の現象を理解する。 3. 電磁気の性質を理解し、電流や磁場における現象を理解する。 4. 上記における問題を解く力をつける。
--

II 授業の進め方（授業形態等）

<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業では物理現象について考えることから始める。 2. 必ず毎時間家庭での復習が必要。（内容の確認や問題演習に取り組む。） 3. 問題演習は復習として専用のノートに日常的に行うこと。

III 教科書・副教材

教科書 「物理」 数研出版
副教材 「セミナー物理」 第一学習社

IV 学習計画

学	月	学 習 内 容		授業時数	備考	
		考 査	「教科書」の学習内容			副教材・その他の学習内容
一 学 期	4	1 学期 中 間 考 査	第1編 力と運動 第1章 平面内の運動 教科書P5～P24 「平面内の速度と加速度」「落体の運動」	セミナー物理 P2～P17	28	
	5		第2章 剛体 教科書P25～P36 「剛体にはたらく力のつりあい」 「剛体にはたらく力の合力と重心」			
	6	1 学期 期 末 考 査	第1編 力と運動 第3章 運動量の保存 教科書P37～P55 「運動量と力積」 「運動量保存則」 「反発係数」	セミナー物理 P18～P33	30	
	7		第4章 円運動と万有引力 教科書P56～P61 「等速円運動」			
二 学 期	9	2 学期 中 間 考 査	第4章 円運動と万有引力 教科書P62～P77 「慣性力」 「単振動」 「遠心力」 「単振り子」	セミナー物理 P34～P49	28	
	10					
	10	2 学期 期 末 考 査	第4章 円運動と万有引力 教科書P78～P96 「万有引力」	セミナー物理 P50～P91	33	
11	第2編 熱と気体 第1章 気体のエネルギーと状態変化 教科書P97～P128					
12		「気体の法則」 「気体の分子運動」 「気体の状態変化」				
三 学 期	1	3 学期 学 年 末 考 査	第3編 波 第1章 波の伝わり方 教科書P129～P147 「正弦波」「波の伝わり方」	セミナー物理 P92～P123	37	
	2		第2章 波の伝わり方 教科書P148～P159 「音のドップラー効果」			
	3		第3章 光 教科書P160～P191 「光の性質」「レンズ」 「光の干渉と回折」			
					計 156 (4単位)	
評 価	<p>学期毎の評価、学年末の評定については、以下の資料を用いて、「関心・意欲・態度」「思考」「知識・理解」表現」の4つの観点から総合的に評価を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①定期考査（各学期、年間5回）、 ②提出物（宿題・テスト直し、実験・観察プリント） ③学習の様子（授業参加態度、提出物状況、関心・意欲等） 					

教科名 理科

科目名 生物（必修選択）

対象 5学年（理系のうち生物選択者）

I 学習到達目標

1. 生命現象を支えるタンパク質の働き、物質代謝・エネルギー代謝を学び、生命を維持する共通原理を理解する。
2. 生命の根本である遺伝現象について、分子生物学的分野まで学び、生命を維持する共通原理を理解する。
3. 動物と植物の生殖と発生について学習し、発生のプログラムについての考え方を習得する。
4. 動物の環境変化に対する応答の仕組みを理解する。
5. 植物のホルモンや動物の神経系について学習し、生物の環境に対する反応について理解する。
6. 問題演習を通して、大学入学共通テスト、国公立大や私立大の一般入試で問われるレベルの知識と考察力、論述力を身につける。

II 授業の進め方（授業形態等）

1. 教科書、資料集を中心に授業を進め、実験・観察を通して理解を深める。
2. 副教材などを積極的に利用し、問題演習を行う。
3. 理解を深めるため、ICT機器やTeamsなどを活用する。

III 教科書・副教材

改訂 生物 (東京書籍)
スクエア最新図説生物 (第一学習社)
改訂 ニューグローバル生物 (東京書籍)

IV 学習計画

期	月	学習内容			授業時数	備考	
		考査	「教科書」の学習内容	副教材・その他の学習内容			
一 学 期	4	一学期 中間 考査	1編 生命現象と物質				
	5		1章 生体物質と細胞	ニューグローバル P5～	6		
			2章 タンパク質の構造と酵素	ニューグローバル P30～	8		
			3章 細胞間の相互作用とタンパク質		8		
4章 代謝とエネルギー	ニューグローバル P56～	6					
期	6	一学期 期末 考査	2編 遺伝子のはたらき				
	7		1章 DNAの構造と複製	ニューグローバル P89～	10		
			2章 遺伝情報の発現		8		
			3章 遺伝子の発現調節	ニューグローバル P112～	10		
4章 バイオテクノロジー	ニューグローバル P129～	8					
二 学 期	9	二学期 中間 考査	3編 生殖と発生				
	10		1章 生物の有性生殖	ニューグローバル P153～	8		
			2章 動物の発生	ニューグローバル P172～	8		
			3章 動物の発生のしくみ	ニューグローバル P190～	8		
4章 植物の発生	ニューグローバル P214～	8					
期	11	二学期 期末 考査	4編 生物の環境応答				
	12		1章 動物の刺激の受容と反応	ニューグローバル P238～	10		
			2章 動物の行動	ニューグローバル P260～	10		
3章 植物の環境応答	ニューグローバル P280～	8					
三 学 期	1	学年末 考査	5編 生態と環境				
	2		1章 生物の多様性と生態学	ニューグローバル P304～	8		
			2章 個体群と生物群集		8		
			3章 生態系の物質生産とエネルギーの流れ	ニューグローバル P326～	8		
3	4章 生態系と生物多様性		8				
						計156 (4単位)	
評 価	定期考査に授業での確認テスト、観察・実験実施時の提出物や長期休業中の課題などを評価の対象とする。 各学期に10段階評価を行い、学年末に5段階の評定を行う。						

教科名 理科
 科目名 **化学基礎**
 対象 5 学年選択者

I 学習到達目標

- 1 化学的な事物や現象の学習・研究を通じて、自然に対する関心や探究心を高め、化学的に探究する能力と態度を身につける。
- 2 基本的な概念や原理・法則の理解を深め、化学的な自然観を養う。
- 3 化学基礎の知識を基に、センター試験程度の大学受験問題に対応できる基礎学力を身につける。

II 授業の進め方（授業形態等）

- 1 通常の講義の形式を中心として行う。
- 2 適宜、演示実験や生徒実験を行う。
- 3 問題演習を適宜行う。

III 教科書・補助教材

教科書 「改訂版 化学基礎」 数研出版
 補助教材 「セミナー 化学基礎+化学」 第一学習社
 「ニューステージ 化学図表」 浜島書店

IV 学習計画

学期	月	学 習 内 容		授業時数	備考	
		考 査	「教科書」の学習内容			副教材・その他の学習内容
一 学 期	4	1 学期 中 間 考 査	序章 化学と人間生活 探究活動の進め方 p.4~p.17	「セミナー 化学基礎+化学」 第1章 物質の構成 1 物質の成分と構成元素 p.6~p.15 2 原子の構造と元素の周期表 (一部)	8~10 8~10	
	5		第1編 物質の構成と化学結合 第1章 物質の構成 p.20~p.37 1. 純物質と混合物 2. 物質とその成分 3. 物質の三態と熱運動 第2章 物質の構成粒子 1. 原子とその構造 p.38~p.45			
	6		第1編 物質の構成と化学結合 第2章 物質の構成粒子 2. イオン 3. 周期表 p.46~p.55 第3章 粒子の結合 1. イオン結合 2. 分子と共有結合 3. 分子間に働く力 4. 共有結合結晶 p.56~p.79 5. 金属結合 p.80~p.85			第1章 物質の構成 2 原子の構造と元素の周期表 (続き) p.16~p.23 3 化学結合 p.24~p.41
二 学 期	9	2 学期 中 間 考 査	第2編 物質の変化 第1章 物質と化学反応式 1. 原子量・分子量・式量 2. 物質質量 p.98~p.120 3. 化学反応式と物質質量 p.121~p.133	第2章 物質の変化 4 物質質量 p.42~p.53 5 化学反応式 p.54~p.61	10~12 10~12	
	10		2 学期 期 末 考 査	第2編 物質の変化 第2章 酸と塩基の反応 p.134~p.163 1. 酸・塩基 2. 水の電離と水溶液のpH 3. 中和反応 4. 塩	第2章 物質の変化 6 酸と塩基 p.62~p.67	18~21
	11			第2編 物質の変化 第3章 酸化還元反応 p.164~p.205 1. 酸化と還元 2. 酸化剤と還元剤 3. 金属の酸化還元反応 4. 酸化還元反応の利用（電池・電気分解・金属の精錬）	第2章 物質の変化 7 中和反応と塩 p.68~p.79 8 酸化還元反応 p.80~p.91	10~12 10~12
三 学 期	1 2 3	3 学期 学 年 末 考 査				
評 価	各学期定期考査に平常点（ノート類の提出・内容）、実験レポート（提出・内容）を加味したものを評価の対象とする。なお、平常点には「関心・意欲・態度」、「知識・理解」、「科学的思考」、「表現」の観点別の評価を含むものとする。各学期10段階評価を行い、学年末に5段階の評定を行う。				計 117 (3単位)	

教科名 理科

科目名 **地学基礎**

対象 5 学年 (文系必修 3 単位 ・ 理系必修選択 3 単位)

I 学習到達目標

- 1 日常生活や社会との関連を図りながら、宇宙の誕生から現在の地球に至るまでを時間的・空間的な広がりの中でとらえる。
- 2 地球や地球を取り巻く環境に対して目的意識をもって観察・実験を行い、地学的に探究する能力と態度を育てる。
- 3 地学の基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、地学的な見方や考え方を養う。

II 授業の進め方 (授業形態等)

- 1 講義と並行して、実習・実験・観察などの作業を重視し、具体的なイメージをできるだけ捉える様にする。
- 2 副教材を積極的に利用し演習も行う。
- 3 地学教室にて、標本や実物を見せると共に、ICT教材や配布プリントを活用した授業を行う。

III 教科書・補助教材

教科書 「地学基礎」改訂版 啓林館
 補助教材 「ニューステージ新地学図表」 浜島書店
 「センサー地学基礎」改訂版 啓林館

IV 学習計画

学期	月	学 習 内 容		授業時数	備考
		考 査	「教科書」の学習内容		
一 学 期	4	1 学期	第 1 部 固体地球とその変動 第 1 章 地球 第 1 節 地球の概観 第 2 節 地球の内部構造	・新地学図表 P56-66	8～10
	5	中 間 考 査	第 2 章 活動する地球(11) 第 1 節 プレートテクトニクスと地球の活動 第 2 節 地震	・新地学図表 P67-87.	8～10
	5	1 学期	第 2 章 活動する地球(11) 第 3 節 火山活動と火成岩の形成	・新地学図表 P88-106	10～12
二 学 期	6	期 末 考 査	第 2 部 移り変わる地球 第 1 章 地球史の読み方(8) 第 1 節 堆積岩とその形成 第 2 節 地層と地質構造 第 3 節 地球の歴史の区分と化石	・新地学図表 P108-145	14～16
	9	2 学期	第 2 章 地球と生命の進化(6) 第 1 節 先カンブリア時代 第 2 節 顕生代	・新地学図表 P132-151	10～12
	10	中 間 考 査	第 3 部 大気と海洋 (14) 第 1 章 大気の大気圏 第 1 節 大気圏 第 2 節 水と気象 第 2 章 太陽放射と大気・海洋の運動(6) 第 1 節 地球のエネルギー収支 第 2 節 大気の大循環 第 3 節 海水の循環	・新地学図表 P152-181 ・新地学図表 P158-181	10～12
三 学 期	10	2 学期	第 3 章 日本の天気(3) 第 1 節 日本の位置 第 2 節 冬から春の天気 第 3 節 夏から秋の天気	・新地学図表 P168-173	18～21
	11	期 末 考 査	第 4 部 宇宙の構成 (15) 第 1 章 太陽系と太陽(6) 第 1 節 太陽系の天体 第 2 節 太陽系の誕生 第 3 節 太陽	・新地学図表 P16-35	
	12	3 学期	第 2 章 恒星としての太陽の進化(4) 第 1 節 太陽と恒星 第 2 節 太陽の誕生と進化	・新地学図表 P30-45	
評 価	2	学 年 末 考 査	第 3 章 銀河系と宇宙(2) 第 1 節 銀河系とまわりの銀河 第 2 節 宇宙の姿	・新地学図表 P6-15	10～12
	3	第 5 部 自然との共生 (5) 第 1 節 地球環境と人類 第 2 節 火山・地震災害と社会 第 3 節 気象災害と社会 第 4 節 人間生活と地球環境の変化	・新地学図表 P182-191 ・新地学図表 P85-87, 93-95 ・新地学図表 P180-181		
				計 117 (3 単位)	
<p>・各学期考查に平常点 (実験・実習レポート、プリント提出など) を加味し評価をする。 ・平常点の中に「関心・意欲・態度」「思考」「知識・理解」「表現」の観点別の評価を含むものとする。 ・各学期 10 段階評価を行い、学年末に 5 段階の評定を行う。</p>					

保健体育科

I 保健体育科の学習目標

心と体を一体としてとらえ、健康・安全や運動についての理解と運動の合理的・計画的な実践を通して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を身につけるとともに、健康の保持増進のための実践力を育成し体力の向上を図り、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を学ぶ。

(1) 体育

- ①運動の合理的・計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができる。
- ②自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正・協力・責任・参画などに対する意欲を高める。
- ③健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を身につける。

(2) 保健

- ①個人及び社会生活における健康・安全について理解を深める。
- ②生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を身につける。

II 保健体育科の3年間の科目構成と学習内容

学年	体 育 2単位（必修）	保 健 1単位（必修）
4年	1 体づくり運動 体ほぐし、体力を高める運動、白鷗体操、体力テスト 2 陸上競技 短距離走、跳躍、長距離走 3 水泳 基本泳法の習得、20分間泳 等 4 球技 男女別に2種目ずつ実施 5 選択種目（2学期より） 武道（柔道・球技）、ダンスより選択 6 体育理論 スポーツの歴史・文化的特性や現代のスポーツの特徴	1 現代社会と健康 我が国の疾病構造や社会の変化に対応して、健康を保持増進するためには、個人の行動選択やそれを支える社会環境づくりなどが大切であるというヘルスプロモーションの考え方を生かし、人々が自らの健康を適切に管理すること及び環境を改善していくことの重要性について学ぶ。 ①健康の考え方 ②健康の保持増進と疾病の予防 ③精神の健康 ④交通安全 ⑤応急手当
5年	1 体づくり運動 体ほぐし、体力を高める運動、白鷗体操、体力テスト 2 陸上競技 短距離走、跳躍、投擲種目、長距離走 3 水泳 基本泳法の習得、20分間泳、着衣泳 等 4 球技 男女別に2種目ずつ実施 5 選択球技 球技3種目より1種目を選択して実施 6 体育理論 運動やスポーツの効果的な学習の仕方	2 生涯を通じる健康 生涯の各段階において健康についての課題があり、自らこれに適切に対応する必要があること、及び我が国の保健・医療制度や機関を適切に活用することの重要性について学ぶ。 ①思春期の性意識と性行動の選択 ②結婚・妊娠・出産と加齢 ③保健・医療制度、地域の保健・医療機関、保健活動や対策 3 社会生活と健康 環境と健康、環境と食品の保健、労働と健康にかかわる活動や対策の重要性について学ぶ。 ①環境と健康 ②環境と食品の健康 ③労働と健康
6年	体 育 3単位（必修） 1 体づくり運動 体ほぐし、体力を高める運動、白鷗体操、体力テスト 2 陸上競技 短距離走 3 水泳 アクアゲーム、20分間泳 等 4 球技 男女別に実施 5 選択球技 球技3種目より1種目を選択して実施 6 体育理論 豊かなスポーツライフの設計の仕方	

教科名 保健体育 科

科目名 **体育**

対 象 5 学年全員

I 学習到達目標

運動の合理的・計画的な実践を通して、知識を深めるとともに、技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力について学び、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を身につける。

II 授業の進め方（授業形態等）

2 単位のうち 1 単位は、3 種目の中から 1 種目を選択し年間を通じて男女共習で履修し、1 単位は男女別習で各種目を履修する。

III 教科書・副教材

教科書：保体 3 0 4 現代高等保健体育（大修館書店）

副教材：ステップアップ高校スポーツ（大修館書店）

IV 学習計画

学 期	月	学 習 内 容			授業時数	備考
		男 子	女 子	選択種目		
一 学 期	4	体づくり運動 P6-25		バドミントン P236-247、卓球 P224-235 テニス P200-211 から 1 種目を選択して履修 (年間を通じて選択した種目を行う。)	8	
	5	体力テスト P378-381			8	
	6	陸上競技(走跳投) P54-83			4	
	7	水 泳 P84-101 泳法の習得、20分間泳、着衣泳 等			3	
二 学 期	9	水 泳 泳法の習得、20分間泳、着衣泳 等			5	
	10	ニュースポーツ (種目未定)	バレーボール P180-199	バドミントン、卓球、テニスから 1 種目を選択して履修 (年間を通じて選択した種目を行う。)	7	
	11	バレーボール P180-199	ニュースポーツ (種目未定)		9	
	12				9	
			5			
三 学 期	1	陸上競技(長距離走) P62-63	陸上競技(長距離走) P62-63	バドミントン、卓球、テニスから 1 種目を選択して履修 (年間を通じて選択した種目を行う。)	8	
	2	体育理論 現代高等保健体育	体育理論 現代高等保健体育		8	
	3	P136-157	P136-157		4	
					計 7 8 (2単位)	
評 価	各種目とも、出席状況・授業態度・実技点を対象に 1 0 段階の評価を行い、各種目の評価を合算して体育の評価とする。					

教科名 保健体育 科
 科目名 保 健
 対 象 5 学年全員

I 学習到達目標

個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を身につける。

II 授業の進め方（授業形態等）

健康・安全に関する基礎的・体系的な知識を習得することにより、健康問題を認識して正しく判断し、適切に対処できるようにする。

III 教科書・副教材

教科書：保体304現代高等保健体育（大修館書店）
 副教材：図説 現代高等保健（大修館書店）

IV 学習計画

期	月	学 習 内 容		授業時数	備考	
		考 査	「教科書」の学習内容			副教材・その他の学習内容
一 学 期	4	1 学期末 考査	生涯を通じる健康 ①思春期と健康 P64-65 ②性意識と性行動の選択 P66-67 ③結婚、妊娠、出産と加齢 P68-77	図説 P94-97 P98-99 P100-113	3	
	5				4	
	6				4	
	7				3	
二 学 期	9	2 学期末 考査	生涯を通じる健康 ④保健制度・医療制度の活用 P80-83 ⑤医薬品と健康 P84-85 ⑥さまざまな保健活動や対策 P86-87 社会生活と健康 ①大気汚染、水質汚濁、土壌汚染と健康 P90-93 ②健康被害の防止と環境対策 P94-97 ③環境衛生活動のしくみと働き P98-99	図説 P114-119 P120-123 P124-125 P134-139 P140-141 P142-145	3	
	10				5	
	11				4	
	12				3	
三 学 期	1	学 年 末 考査	社会生活と健康 ④食品衛生活動・食品と環境 P100-103 ⑤労働と健康 P104-109	図説 P146-149 P150-155	3	
	2				4	
	3				3	
					計 39 (1単位)	
評 価	各学期末考査で評価する。（ノート提出、小テスト等を評価の対象とする場合もある。）					

芸術科

I 音楽科の学習目標

- (1) 音楽Ⅰ 音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質能力を高める。
- (2) 音楽Ⅱ 音楽の諸活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と深く関わる資質能力を高める。

美術科の学習目標

- (1) 美術教育を通して様々な表現を体験し、豊かな心情を養う。
- (2) 自己を表現することの喜びを味わわせ、発想豊かな想像力を育てる。
- (3) 日本および海外の美術を鑑賞することにより、ゆとりある美的情操を養う。
- (4) 美術が社会に与える影響や役割を理解し、自己表現の手段としての美術を理解できるようにする。
- (5) 自主的・自発的な発想を奨励し、自ら考えたことが作品になる喜びを味わわせる。

書道科の学習目標

- (1) 基本的な書写能力を高める活動を通し、書に親しむ心を養い、感性を豊かにする。
- (2) 書を通して自己を表現することの喜びを味わわせ創造力を伸ばす。
- (3) 書の文化や伝統を理解し、生涯にわたり書に親しむ心を育てる

II 芸術科の3年間の科目構成と学習内容

	音楽Ⅰ (必修選択) 2単位	美術Ⅰ (必修選択) 2単位	書道Ⅰ (必修選択) 2単位	
4年	1.三味線演奏や歌唱を通して音楽的に表現する基礎を培う。 2.音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受して、演奏したり鑑賞したりする能力を培う。 3.音楽理論や楽典などの音楽的知識を培う。	・美術の制作活動すべてを体験できるようにバランスよく、絵画・デザイン・立体造形について学習する。 ・美術の幅広い創造活動を通して美術を愛好する心情を育てる。 ・美的体験を豊かにし感性を高め創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。	・漢字・仮名・漢字仮名交じり書の基本を学ぶ。 ・古典の臨書を通して、書の文化や伝統を理解し、書の美に親しむ力を育てる。 ・臨書や鑑賞を通して感じ取った美的感性を自己の創作表現に活かす。	
5年	(5年次は芸術科科目の設定なし)			
	音楽Ⅰ (自由選択) 2単位	音楽Ⅱ (自由選択) 2単位	美術Ⅰ (自由選択) 2単位	美術Ⅱ (自由選択) 2単位
6年	・音楽表現の技能や鑑賞能力をさらに高め、表現に生かす。 ・音楽の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育てる。	・音楽表現の技能や鑑賞能力をさらに高め、表現に生かす。 ・音楽大学に進学を希望する生徒に向け、志望大学・志望学科・受験方法に対応した実技・演習を行う。	・美術の幅広い創造活動を通して美術を愛好する心情を育てる。 ・美的体験を豊かにし感性を高め創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。 ・自ら課題を設定し自由に制作を行い自己の表現力を伸ばす。	・1、2年次の制作活動をふまえ、さらに個性豊かな美術の表現能力を高める。 ・美術文化についての理解を深めさらに美術を愛好する心情を育てる。 ・自ら課題を設定し自由に制作を行い自己の表現力を伸ばす。

英語科

I 英語科の学習目標

- (1) 外国語の学習を通じて、外国語とその外国語が使われている文化背景について学習する。
- (2) 外国語の学習を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢を育成する。
- (3) 外国語の学習を通じて、情報や意向を理解し、自己表現する実践的なコミュニケーション力を育成する。

II 英語科の3年間の科目構成と学習内容

II 英語科の3年間の科目構成と学習内容

4 年	コミュニケーション英語Ⅰ（必修） 4単位		英語表現Ⅰ（必修） 2単位		
	1 積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。 2 「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」及び「書くこと」の4技能を総合的に育成する。 3 聞いたり読んだりしたことなどについて、話し合ったり、簡潔にまとめたりできるようにする。		1 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。 2 英語を通じて、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。 3 教わった英文を自分の言葉で他者に説明できる能力を育成する。		
5 年	コミュニケーション英語Ⅱ（必修） 4単位		英語表現Ⅱ（必修） 2単位	HAPiE(Hakuo Academic Presentation in English) 1単位（学校設定科目）	
	1 積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てるとともに、コミュニケーション能力を伸ばす指導を発展的に行う。 2 速読したり精読したり、目的に応じた読み方をする。 3 話し合いをして結論をまとめ、まとまりのある文章を書くなど、統合的な言語活動を行う。		1 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。 2 英語を通じて、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。 3 既習事項を深化させ、テーマに基づき論理的に自分の考えを表現する力をつける。	1 テーマに基づき、様々な形態で自分の意見を発表する力をつける。 2 聴衆からの質問の要点を理解し、相手にわかりやすく英語で応答する力をつける。	
6 年	コミュニケーション英語Ⅲ（必修） 4単位	英語表現Ⅱ（必修） 2単位	英語（名称仮）（文系自由選択） 2単位	英語（名称仮）（文理系自由選択） 2単位	HAPiE(Hakuo Academic Presentation in English) 1単位（学校設定科目）
	1 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度をさらに伸ばす。 2 難易度の高いまとまりのある英文を読み、正確に情報を把握する力をつける。 3 母語話者の英語を聞いて要点を理解し、自分の意見や主張を明確に表現する力を養成する。	1 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度をさらに伸ばす。 2 文章構成を意識し、論理の展開や表現方法に工夫を加えながらまとまりのある英語を書く能力を養う。 3 総合的な英語力を高めるため、問題演習を行う。	1 幅広い話題について、読んだことを理解し、コミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。 2 多様な内容に対応する読解力を伸ばす。 3 総合的な英語力を高めるため、様々な形式の問題演習を行う。	1 幅広い話題について、読んだことを理解し、コミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。 2 多様な内容に対応する読解力を伸ばす。 3 総合的な英語力を高めるため、様々な形式の問題演習を行う。	1 英語論文（Academic Essay）の書き方について学び、自らの主張や調査結果を論理的かつ的確に表現する力をつける。 2 事前に用意したプレゼンテーションを流し、ようにおこなう力をつける。 3 聴衆とのやりとりを英語で行い、自分の主張を論理的かつ明確に展開する力をつける。

※ 6年生の自由選択科目は受講希望者数によって変更があり得ます。

教科名 英語科
 科目名 コミュニケーション英語Ⅱ
 対象 5 学年全員

I 学習到達目標

- 1 社会的なテーマ等、4年次よりも発展した内容の英文を読んだり聞いたりし、正確に英語を理解する力を身につける。
- 2 基本的な文法構造を確実にし、更に発展的な英文読解をする能力を身につける。
- 3 諸外国の歴史や文化に触れ、国際理解を深める。様々な人の生き方に触れ、自身の生き方あり方について考え、意見を言える。
- 4 グラフや表などを読み取り、全体的に何を表現しているのかをまとめる能力を身につける。

II 授業の進め方（授業形態等）

- 1 週4時間授業を行う。授業形態はクラス単位でペアワーク・グループワークを中心に行う。
- 2 1年間の授業時数156時間。
- 3 JETとのTTを週1時間行う。

III 教科書・補助教材

教科書 「Prominence English Communication II」東京書籍
 補助教材 「ユメタン難関大学合格必須レベル②」アルク
 「CROSSBEAM 総合問題集」Emile

IV 学習計画

学 期	月	学 習 内 容			授業時数	備考
		考 査	「教科書」の学習内容	副教材・その他の学習内容		
一 学 期	春休み 宿題	宿題 テスト	英単語、文法、長文、リスニング	総復習	1	
	4	1学期 中間 考査	Lesson1: The Power of Empathy SVOO(O=ifまたは whether で始まる節)/受け身 受け身(完了形)	作成プリント 単語テスト	13	単語テスト・内容 理解テスト等
	5		Lesson2: Come and visit the Park in the Sky! 比較級を強調する far 現在完了進行形		16	
	6 7	1学期 期末 考査	Lesson3: A Window to Ancient Earth S+be 動詞+C(C=whether/what など始まる節) 関係副詞の非制限用法 Lesson4: Bonsai Goes Global 倒置 独立分詞構文 Optional Reading 1: Long Walk to Forever	作成プリント 単語テスト	16 10	単語テスト・内容 理解テスト等
二 学 期	夏休み 宿題	宿題 テスト	英単語、文法、長文、リスニング			
	9	2学期 中間 考査	Lesson5: Taking the Sting Out of Jellyfish No matter +what など始まる節 完了不定詞 Lesson6: Does It Spark Joy? 未来進行形 習慣を表す would	作成プリント 単語テスト	10 9	単語テスト・内容 理解テスト等
	10				6	
	11 12	2学期 期末 考査	Lesson7: Malala's Fight for Education SVOC(C=過去分詞)/前置詞+関係代名詞 Lesson8: Welcome to the World of Tove Jansson 先行詞を含んだ関係副詞 受け身の to 不定詞	作成プリント 単語テスト	7 17	単語テスト・内容 理解テスト等
三 学 期	冬休み 宿題	宿題 テスト	英単語、文法、長文、リスニング			
	1	3学期 学年末 考査	Lesson9: A country of Poles and Signs 節を指す形式目的語の it 助動詞 do による動詞の強調 Lesson10: How to Use "If" if S were to do / if S should do Optional Reading2: Today You, Tomorrow Me	作成プリント 単語テスト	14 17	単語テスト・内容 理解テスト等
	2				9	
					計 156 単位	
評 価	各学期定期考査に平常点（宿題の提出及び宿題テスト・ノート提出・小テスト）を加味したものを評価の対象とする。なお、平常点の中に「関心・意欲・態度」「思考」「知識・理解」「表現」の観点別の評価を含むものとする。科目コミュニケーション英語Ⅱとして各学期に10段階評価を行い、学年末に5段階の評定を行う。					

教科名 英語科
 科目名 **英語表現Ⅱ**
 対象 5学年全員

I 学習到達目標

英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。
 ア 与えられた話題について、即興で話す。また、伝えたい内容を整理して論理的に話す。
 イ 主題を決め、様々な種類の文章を書く。
 ウ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどをまとめ、発表する。
 エ 多様な考え方ができる話題について、立場を決めて意見をまとめ、相手を説得するために意見を述べ合う。

II 授業の進め方（授業形態等）

- 1 週2時間、クラス単位で授業を行う。
- 2 1年間の授業時数78時間。
- 3 教科書・補助教材を使用し、授業を行う。

III 教科書・補助教材

教科書 Perspective English Expression II New Edition 第一学習社
 補助教材 英文法・語法 Vintage 3rd Edition いいずな書店
 Write to the Point 数研出版

IV 学習計画

学 期	月	学 習 内 容		授業時数	備考
		考 査	「教科書」の学習内容		
一 学 期	春休み 宿題	宿題 テスト	前年度の復習、英語の読み物		
	4	1学期 中間 考査	Lesson 1 : Education/ Learning Lesson 2 : Food / Clothing / Housing Lesson 3 : Hobby / Pastime Lesson 4 : Daily Life Review1	作成プリント 3 3 3 3	小テスト
	5		Lesson 5 : Language Lesson 6 : Sports	3	
	6	1学期 期 末 考 査	Lesson 7 : Traveling / Sightseeing / Transportation Lesson 8 : Weather / Atmosphere / Phenomena Lesson 9 : Art Lesson10 : Medicine / Health Care Review2	作成プリント 3 3 3 3	小テスト
	7		Lesson11 : Japanese Culture Lesson12 : Labor / Business		
	夏休み 宿題	宿題 テスト	1学期の復習	1学期の復習	
二 学 期	9	2学期 中間 考査	Lesson13 : Information and Communication Technology Lesson14 : Literature Lesson15 : Modern Society / Social Issues Review 3 Lesson16 : Paragraph Structure Lesson17 : Time Order / Space Order Lesson18 : Cause / Effect	作成プリント 3 3 3 3 3	小テスト
	10				
	11	2学期 期 末 考 査	Lesson19 : Listing / Giving Examples Lesson20 : Comparison / Contrast Lesson21 : Summarizing / Paraphrasing / Adding Emphasizing Lesson22 : Essay Writing Lesson23 : Presentation① Lesson24 : Presentation② Lesson25 : Presentation③	作成プリント 3 3 4 4 4	小テスト
	12				
	冬休み 宿題	宿題 テスト	2学期の復習	2学期の復習	
三 学 期	1	3学期 学 年 末 考 査	Lesson26 : Discussion① Lesson27 : Discussion② Lesson28 : Discussion③ Lesson29 : Debate① Lesson30 : Debate② Lesson31 : Debate③	作成プリント 3 3 5 6	小テスト
	2				
	3				
				計 78 (2単位)	
評 価	各学期定期考査の得点に、小テスト、課題の提出、授業への取り組み等を加えて評価する。 各学期に10段階評価を行い、学年末に5段階の評定を行う。				

教科名 英語科
 科目名 HAPiE (Hakuo Academic Presentation in English)
 対象 5 学年全員

I 学習到達目標

- 1 英語を通して相手の意見を聞き、自分の意志を相手に伝える力を身につける。
- 2 プレゼンテーションの技能を基本から学習し、発表及び他者評価をすることを通じて、技能を高める。

II 授業の進め方 (授業形態等)

- 1 週 1 時間、クラス単位で授業を行う。
- 2 1 年間の授業時数 39 時間。
- 3 ネイティブスピーカーと日本人教師のチームティーチングで授業を行う。
- 4 プレゼンテーション技能向上のため、さまざまな形態のパフォーマンスを行う。

III 教科書・補助教材

Speaking of Speech New Edition Macmillan

IV 学習計画

学 期	月	学 習 内 容		授業時数	備考
		考 査			
一 学 期	4	1 学期 中 間 考 査	姿勢とアイコンタクト	2	
	5		ジェスチャー	2	
			スピーチ① Informative Speech	2	
	6	1 学期 期 末 考 査	ジェスチャー	2	
7	声の抑揚		2		
			スピーチ② Using Gestures	4	
	夏休み 宿 題				
二 学 期	9	2 学期 中 間 考 査	効果的な視覚用表示物	2	
	10		視覚用表示物の説明	2	
			プレゼンテーション① Using Charts	3	
	11	2 学期 期 末 考 査	視覚用表示物の説明	2	
12	導入		2		
			プレゼンテーション②	4	
	冬休み 宿 題				
三 学 期	1	3 学期 学 年 末 考 査	結論	3	
	2		プレゼンテーション③	7	
	3				
				計 39 (1単位)	
評 価	各学期定期考査の得点に、実技、発表、課題の提出、授業への取り組み方等を加えて総合的に評価する。 各学期に 10 段階評価を行い、学年末に 5 段階の評定を行う。				

外国語科

I ドイツ語の学習目標

- (1) 外国語の学習を通じて、外国語とその外国語が使われている文化背景について学ぶ。
- (2) 外国語の学習を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢を育てる。
- (3) 外国語の学習を通じて、情報や意向を理解し、自己表現する実践的なコミュニケーション能力を身につける。

II ドイツ語科の6年間の科目構成と学習内容

		「科目」と学習内容	発展的な内容、特色ある活動、関連する行事等
中学段階	1年	開講せず	開講せず
	2年	<ul style="list-style-type: none"> ・ドイツ語の初歩（アルファベット、発音など）を学習し、基本的な挨拶、自己紹介、初歩的な日常会話ができるようにする。 ・ドイツの歴史、文化、実情に触れることで、ドイツさらにはヨーロッパ、世界への関心を呼び起こす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ATLによる発音練習、聞き取り演習。 ・小テスト、単語ゲームなどで学習した単語の定着。 ・自己紹介原稿など、基本的な分を書けるようにする。 ・スピーチ、ドラマの台詞などを暗唱し、発表する。 ・DVDあるいは講師を招いて、ドイツ文化（音楽、食、スポーツなど）に親しむ。
	3年	<ul style="list-style-type: none"> ・中学二年生で学んだドイツ語をさらに発展させて学習し日常会話などができるようにする。 ・正しい発音、基本的文法事項を徹底する。 ・ドイツの過去と現代、ドイツ文化の特徴を学び、その知識を深める。 ・ドイツ、ヨーロッパ、世界への関心を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ラジオ教材の活用など聞き取り練習 ・語彙を増やす。 ・スキットの作成、発表 ・文法、語法の演習 ・日記を書き、少しまとまった文を書けるようにする。 ・暗唱など口頭発表活動 ・副読本を読む。
高校段階	4年	<ul style="list-style-type: none"> ・中学で学んだドイツ語をさらに発展させて学習し、日常会話などから実際に使うことができるドイツ語ができるようにする。 ・ドイツの歴史と現代のドイツ、ドイツ文化の特徴を学び、その知識をさらに深める。さらに自ら考え表現する能力と態度を身につける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションを中心とした発展的活動 ・文法、語彙、表現力を強化する活動 ・副読本を読む。 ・聴解力強化 ・スピーチ、ダイアログを行う。
	5年	<ul style="list-style-type: none"> ・中学で学んだドイツ語をさらに発展させて学習し、日常会話などから実際に使うことができるドイツ語ができるようにする。 ・ドイツの歴史と現代のドイツ、ドイツ文化の特徴を学び、その知識をさらに深める。さらに自ら考え表現する能力と態度を身につける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションを行う ・やさしいニュースを聞く ・文法、語彙、表現力を強化する活動 ・副読本を読む。 ・聴解力強化 ・スピーチ、ダイアログを行う。
	6年	<ul style="list-style-type: none"> ・大学入試（共通テスト・私大入試）で扱われている外国語科目に対応できるだけの能力をつける。 ・大学入試問題（採用している大学のみ）などの演習を実施 【長文理解に加えて、背景を学ぶ】 【いろいろなテーマについて内容豊かに描く】 【話し合ったり、討論したりする】 	<ul style="list-style-type: none"> ・文法、語法、構文の演習 ・語彙増強 ・読解力の向上 ・リスニングテストで聞き取り練習 ・各自の必要に応じた力の伸長 ・プレゼンテーションを行う。

* 高校生の自由選択科目は受講希望者数によって変更があり得ます。

教科名外国語科

科目名 ドイツ語

対象 高校2学年 中級

I 学習到達目標

- 1 ドイツ語の基本的な文法を復習して理解を深める。
- 2 3年間学んだ中で未履修な部分（文法）を学習する。
- 3 ドイツ語のテキストを読む力を身に付ける。
- 4 ドイツの文化やドイツ人の気質などについて学び、知識を深める。

II 授業の進め方（授業形態等）

- 1 週1回2時間で選択授業を行う。
- 2 今まで学習してきた冠詞、名詞の性などの各分野（文法）の理解を確認する。理解が不十分な分野は再度詳しく説明する。
- 3 定期的に単語テストや小テストを行い、基本的な文法事項の定着をはかる。

III 教科書・補助教材

教科書 「シュリット・フュア・シュリット」三修社
今井田亜弓他

IV 学習計画

学 期	月	学 習 内 容		授業時数	備考
		考 査	「教科書」の学習内容		
一 学 期	春休み 宿 題				
	4	授業内 考査	復習 動詞の現在人称変化、人称代名詞、語順、 名詞の性と格変化（1, 4格）など	発音練習 基本文型の習得	8
	5		L4 不規則動詞の現在人称変化 命令形 L5 不定冠詞類 所有冠詞、否定冠詞kein、 定冠詞類 welcher, dieserなど		8
	6	授業内 考査	L6 前置詞 分離動詞・非分離動詞	発音練習 基本文型の習得 ドイツ圏の国々の文化、ドイツ人の 性格などを紹介	8
	7		L7 話法の助動詞		4
夏休み 宿 題		文法の復習			
二 学 期	9	授業内 考査	L8 動詞の3基本形 副文（従属文）	発音練習・聞き取り練習 基本文型の習得 表現力を付ける	8
	10		L9 zu不定詞句の用法 再帰代名詞、再帰動詞		10
	10 11	授業内 考査	L10 形容詞の格変化 形容詞・副詞の比較表現 L11 関係代名詞、指示代名詞	発音練習・聞き取り練習 基本文型の習得 表現力を付ける	10 10
冬休み 宿 題	宿 題 テスト				
三 学 期	1	授業内 考査	L12 受動態 接続法Ⅱ式	発音練習・聞き取り練習 基本文型の習得 表現力を付ける	8
	2				4
				計70 (2単位)	
評 価	以下の点から総合的に評価する。 ・毎学期の授業内考査により、知識・理解度をみる。 ・ドイツ語で自己紹介の文を論理的かつ物語的に作成して発表することにより、思考・判断・表現の能力をみる。 ・小テストや課題提出などを通して、学習意欲をみる。 ・ドイツ語やドイツの文化に関して自ら調べることを通じて、主体的に学習に取り組む態度を醸成する。。				

第2外国語科

I スペイン語の学習目標

- (1) 外国語の学習を通じて、外国語とその外国語が使われている文化背景について学ぶ。
- (2) 外国語の学習を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢を育てる。
- (3) 外国語の学習を通じて、情報や意向を理解し、自己表現する実践的なコミュニケーション能力を身につける。

II スペイン語科の3年間の科目構成と学習内容

	「科目」と学習内容	発展的な内容、特色ある活動、関連する行事等
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・スペイン語の基礎を学習し、挨拶や、身近な事柄についての簡単な会話のやり取りができるようにする。 ・直説法までの文法を習得する。 ・スペインを中心に、スペイン語を話す国々について幅広く知る。 ・スペイン語技能検定6級の取得を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・語彙力の強化 ・直説法までの文法の問題演習 ・習得した文法や語彙を使っての文の作成 ・シャドウイングによる発音練習 ・暗唱 ・読解 ・スペイン語技能検定6級の過去問題の問題演習
5年	<ul style="list-style-type: none"> ・4年生で学んだスペイン語を更に発展させて学習し、より応用的なスペイン語を習得するとともに、自分の意見を表現できるようにする。 ・スペイン語技能検定5級の取得を目指す。 ・DELE A1の取得を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・やさしいニュースを聞くなど、聴解力強化 ・文法力の強化 ・語彙力の強化 ・副教材の読解・発音練習 ・作文やスピーチ作成など表現力を強化する活動 ・シャドウイングによる発音練習 ・スペイン語技能検定5級およびDELE A1の過去問題の演習
6年	<p>大学入試（私大入試）で扱われているスペイン語に対応できるだけの総合的な能力を身につける。 大学入試問題（採用している大学のみ）などの演習を実施する。</p> <p>【長文読解】 【様々なテーマについて内容豊かに書く】 【スピーチ・プレゼンテーション】など。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スペイン語技能検定4級の取得を目指す。 ・DELE A2の取得を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文法、語法、構文の演習 ・語彙力の更なる強化 ・語彙力の向上 ・リスニングテスト ・各自、志望校の過去問題を中心とした問題演習 ・スペイン語技能検定4級およびDELE A2の過去問題の演習

* 6年生の自由選択科目は受講希望者数によって変更があり得ます。

教科名 第2外国語科
 科目名 **スペイン語（中級）**
 対象 5学年自由選択

I 学習到達目標

- 1 これまでに学んだスペイン語を更に発展させて学習し、より実用的なスペイン語を習得する。
- 2 直説法の文法を習得する。
- 3 スペインを中心に、スペイン語を話す国々について幅広く知る。
- 4 スペイン語技能検定5級・DELE A1の取得を目指す。

II 授業の進め方（授業形態等）

- 1 自由選択授業
- 2 実践的な問題演習を通して、これまでに学んだ文法知識の定着を図る。

III 教科書・補助教材

教科書 「スペイン語検定対策 5級・6級 問題集」青砥 清一 著 白水社
 適宜プリント（スペイン語技能検定・DELE 過去問題及び対策問題 他）
 視聴覚教材

IV 学習計画

学 期	月	学 習 内 容		授業時数	備考
		考 査	「教科書」の学習内容 副教材・その他の学習内容		
一 学 期	春休み 宿 題				
	4	1 学期 中 間 考 査	第1章 文法問題 (p.6~14)	プリント	4
	5		第2章 西文和訳 (p.57~61)	視聴覚教材	8
	5		第3章 Q&A問題 (p.69~70)	単語テスト	
6	1 学期 期 末 考 査	第1章 文法問題 (p.15~21)	プリント	8	
6		第4章 聞き取り問題 (p.73~74)	視聴覚教材		
6		第5章 語彙問題 (p.77~83)	単語テスト	4	
7		第6章 西作文問題 (p.90~91)	学期末テスト		
	夏休み 宿 題	宿 題 テスト			
二 学 期	9	2 学期 中 間 考 査	第1章 文法問題 (p.22~29)	プリント	10
	10		第2章 西文和訳 (p.62~68)	視聴覚教材	10
	10		第3章 Q&A問題 (p.71~72)	単語テスト	
	11	2 学期 期 末 考 査	第1章 文法問題 (p.30~38)	プリント	10
12	第4章 聞き取り問題 (p.75~76)		視聴覚教材	10	
12	第5章 語彙問題 (p.84~89)		単語テスト		
12		第6章 西作文問題 (p.92~94)	学期末テスト		
	冬休み 宿 題	宿 題 テスト			
三 学 期	1	3 学期 学 年 末 考 査	第1章 文法問題 (p.39~56)	プリント	6
	2			視聴覚教材	8
				単語テスト	
				学年末テスト	
				計 78 (2単位)	
評 価	授業内で実施する単語テストの点数、学期末に実施するまとめテスト、平常点（提出物・関心・意欲・態度）を評価の対象とし、総合的に判断する。 達成度により、5段階の評定を行う。				

第2外国語科

I フランス語の学習目標

- (1) 外国語の学習を通じて、外国語とその外国語が使われている文化背景について学ぶ。
- (2) 外国語の学習を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢を育てる。
- (3) 外国語の学習を通じて、情報や意向を理解し、自己表現する実践的なコミュニケーション能力を身につける。

II フランス語の3年間の科目構成と学習内容

	「科目」と学習内容	発展的な内容、特色ある活動、関連する行事等
4年	<ul style="list-style-type: none">・ 日常会話をできるようにする・ フランス語の全体像を把握する・ フランスの文化について学習し、他との共通点や違いを理解して考える力をつける	<ul style="list-style-type: none">・ 文法、語彙、聴解力、読解力を強化する活動・ 口頭発表・ 仏検の演習（希望者は仏検受験）
5年	<ul style="list-style-type: none">・ 旅行や留学で使える会話表現を増やす・ 学習した文法事項を活用して、読解や仏作文ができる・ フランスの文化、歴史、現代事情について学習し、自ら考え表現する能力と態度を身につける	<ul style="list-style-type: none">・ 文法、語彙、聴解力、読解力を強化する活動・ 口頭発表・ 翻訳・ 仏作文、日記、手紙、メール・ 仏検の演習（希望者は仏検受験）
6年	<ul style="list-style-type: none">・ 大学入試に対応できる能力を身につける	<ul style="list-style-type: none">・ 大学入試問題の演習など

* 6年生の自由選択科目は受講希望者数によって変更があり得ます。

第2外国語科

I フランス語の学習目標

- (1) 外国語の学習を通じて、外国語とその外国語が使われている文化背景について学ぶ。
- (2) 外国語の学習を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢を育てる。
- (3) 外国語の学習を通じて、情報や意向を理解し、自己表現する実践的なコミュニケーション能力を身につける。

II フランス語の6年間の科目構成と学習内容

		「科目」と学習内容	発展的な内容、特色ある活動、関連する行事等
中学段階	1年	開講せず	開講せず
	2年	<ul style="list-style-type: none"> ・初歩的な会話をできるようにする ・フランス語のしくみを理解する ・フランス文化について学習し、他との共通点や違いを理解する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ALTとの学習 ・聞き取り練習 ・寸劇の作成と発表 ・演劇 ・文法の演習 ・フランスのゲーム、歌、アニメ
	3年	<ul style="list-style-type: none"> ・日常会話をできるようにする ・フランス語の全体像を把握する ・フランス文化について学習し、他との共通点や違いを理解して考える力をつける 	<ul style="list-style-type: none"> ・ALTとの学習 ・聞き取り練習 ・寸劇の作成と発表 ・翻訳 ・文法や仏検の演習（希望者は仏検受験） ・フランスのゲーム、歌、映画
高校段階	4年	<ul style="list-style-type: none"> ・旅行や留学で使える会話表現を増やす ・読解や仏作文に慣れる ・フランスの文化について学習し、自ら考え表現する能力と態度を身につける 	<ul style="list-style-type: none"> ・文法、語彙、聴解力、読解力を強化する活動 ・口頭発表 ・翻訳 ・仏作文 ・仏検の演習（希望者は仏検受験）
	5年	<ul style="list-style-type: none"> ・旅行や留学で使える会話表現をさらに増やす ・学習した文法事項を活用して、読解や仏作文ができる ・フランスの文化、歴史、現代事情について学習し、自ら考え表現する能力と態度を身につける 	<ul style="list-style-type: none"> ・文法、語彙、聴解力、読解力を強化する活動 ・口頭発表 ・翻訳 ・仏作文、日記、手紙、メール ・仏検の演習（希望者は仏検受験）
	6年	<ul style="list-style-type: none"> ・大学入試に対応できる能力を身につける 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学入試問題の演習など

* 6年生の自由選択科目は受講希望者数によって変更があり得ます。

科目名 フランス語
 対象 5学年選択（中級クラス）

I 学習到達目標

- 1 フランス語の基本的な表現をさらに発展させて学習し、旅行や留学で使える会話表現を増やす。
- 2 様々な時制や代名詞を学習し、読解や仏作文に活用できるようにする。
- 3 フランスの文化、歴史、現代事情について学習し、それについて自ら考えて表現する能力と態度を身につける。

II 授業の進め方（授業形態等）

- 1 初級クラスや初中級クラスでフランス語を学んだ高校2年生を対象とする。
- 2 教科書を活用して基礎を固めると共に、補助教材も導入して発展的な学習を行う。
- 3 定期的にテストや発表を行い、基礎文法事項や様々な会話表現の定着を図る。

III 教科書・補助教材

教科書 『新版 ル・フランセ (nouvelle édition, le français)』（斎藤昌三著、白水社、2001年）
 『仏検公式基本語辞典 3・4・5級 新訂版』（APEF編、朝日出版社、2020年）
 補助教材 プリント教材など

IV 学習計画

学 期	月	学 習 内 容		授業時数	備考
		「教科書」の学習内容	副教材・その他の学習内容		
一 学 期	春休み 宿 題		なし	なし	
	4		復習：規則・不規則動詞、近接未来・過去、準助動詞 (pouvoir, savoir, vouloir, devoir)、命令形、複合過去 Leçon 13：代名動詞 pp.34-35 Leçon 15：半過去 pp.38-39 Leçon 14：単純未来 pp.36-37	・仏作文や会話	8
	5				8
	6 7	1 学期 期 末 考 査	Leçon 11：人称代名詞 pp.30-31 Leçon 14：中性代名詞 (en, y) pp.36-37 Leçon 12：指示代名詞 (celui de) pp.32-33	・学期末試験 ・フランス文化や歴史	8 4
	夏休み 宿 題			単語コンクールの準備、仏検演習	
二 学 期	9		Leçon 15：大過去 pp.38-39 Leçon 16：現在分詞、ジェロンディフ、条件法現在 pp.40-41 Leçon 18：接続法現在 pp.44-45 Leçon 14：中性代名詞 (le) pp.36-37	・単語コンクール ・仏作文や会話	8 9
	10				
	11 12	2 学期 期 末 考 査	Leçon 11：直接目的補語と過去分詞の一致 pp.30-31 Leçon 13：代名動詞の複合過去 pp.34-35	・学期末試験 ・フランス文化や歴史	9 4
	冬休み 宿 題			仏検演習	
三 学 期	1	3 学期 期 末 考 査	Leçon 10：関係代名詞 pp.28-29 Leçon 12：指示代名詞 (celui qui)、強調構文 pp.32-33 Leçon 10：疑問代名詞 pp.28-29 Leçon 18：所有代名詞 pp.44-45	・仏作文や会話 ・学期末試験 ・仏検演習 ・翻訳	8 8 4
	2				
	3				
				計 78 (2単位)	
評 価		以下の資料を用いて、総合的に評価を行う。 ・学期末試験（年に3回） ・単語コンクール（年に1回） ・授業への参加態度 ・発表 ・提出物 ・宿題			

第2外国語科

I 中国語の学習目標

- (1) 中国語の学習を通じて、中国語とその中国語が使われている文化背景について学ぶ。
- (2) 中国語の学習を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢を育てる。
- (3) 中国語の学習を通じて、情報や意向を理解し、自己表現する実践的なコミュニケーション能力を身につける。

II 中国語の3年間の科目構成と学習内容

	「科目」と学習内容	発展的な内容、特色ある活動、関連する行事等
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・中学で学んだ中国語をさらに発展させて学習し、日常会話等から実際に使うことができる中国語をできるようにする。 ・中国の歴史と現代の中国、中国文化の特徴を学び、その知識をさらに深める。さらに自ら考え表現する能力と態度を身につける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションを中心とした発展的活動 ・文法、語彙、表現力を強化する活動 ・副読本を読む ・聴解力強化 ・スピーチ、ダイアログを行う
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・中学で学んだ中国語をさらに発展させて学習し、日常会話等から実際に使うことができる中国語をできるようにする。そこから自分の意見を表現できるようにする。 ・中国の歴史と現代の中国、中国文化の特徴を学び、その知識をさらに深める。さらに自ら考え表現する能力と態度を身につける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションを行う ・やさしいニュースを聞く ・文法、語彙、表現力を強化する活動 ・副読本を読む ・聴解力強化 ・スピーチ、ダイアログを行う
3年	<p>大学入試（共通テスト・私大入試）で扱われている中国語科目に対応できるだけの能力をつける。</p> <p>大学入試問題（採用している大学のみ）などの演習を実施 【長文理解に加えて、背景を学ぶ】 【いろいろなテーマについて内容豊かに描く】 【話し合ったり、討論したりする】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・文法、語法、構文の演習 ・語彙増強 ・読解力の向上 ・リスニングテストで聞き取り練習 ・各自の必要に応じた力の伸長 ・プレゼンテーションを行う

教科名 第2外国語
 科目名 中国語（中級）
 対象 高校2年生

I 学習到達目標

- 1 中国語を読んで書き手の意向などを理解できるようにする。
- 2 中国語の基本的な表現を学習し、それを使って言いたいことを相手に伝えたり、相手の意見を聞いたりする能力を身につける。
- 3 中国語が使われている国の人々や生活について学習し、日本との違いや共通点を理解する。

II 授業の進め方（授業形態等）

- 1 副教材を活用し基礎を固めるとともに発展的な学習を行う。
- 2 定期的な単語テストや小テストを行い、基礎文法の定着をはかる。
- 3 暗唱テストや口頭発表を行い、発音、聴解力の定着をはかる。

III 教科書・補助教材

教科書 「対話・短文で学ぶアップデート中国語」 駿河台出版社
 補助教材 プリント教材

IV 学習計画

学 期	月	学 習 内 容		授業時数	備考	
		考 査	「教科書」の学習内容			副教材・その他の学習内容
一 学 期	春休み 宿 題	宿 題	予定なし			
	4	1 学期 中 間 考 査	主述述語文 選択を表す接続詞“还是” 動詞の重ね型 比較の表現“比” P84~P91	プリント 暗唱テスト 単語、文法テスト	8 8	
	5		二重目的語 受け身を表す表現“被” 使役を表す“让”“叫” 「まもなく～だ」 “是～的”構文 P92~P99	プリント 暗唱テスト 単語、文法テスト	8 4	
	6 7		夏休み 宿 題	長文読解 P100		
	二 学 期	9	2 学期 中 間 考 査	教科書の中国語文法総復習 P28~P73 新HSK4級対策 プリント	プリント 暗唱テスト 単語、文法テスト	8 9
		10		教科書の中国語文法総復習 P73~P99 新HSK4級対策 プリント	プリント 暗唱テスト 単語、文法テスト	9 4
11		2 学期 期 末 考 査	教科書の中国語文法総復習 P73~P99 新HSK4級対策 プリント	プリント 暗唱テスト 単語、文法テスト	9 4	
12			冬休み 宿 題	新HSK4級対策 プリント		
三 学 期	1	3 学期 学 年 末 考 査	新HSK4級対策 プリント	プリント 暗唱テスト 単語、文法テスト	8 8 4	
	2					
	3					
				計 78 (2単位)		
評 価	以下の点から総合して評価する。 ・毎学期の定期考査により、知識・理解度をみる。 ・中国語の発表活動を通し、表現の能力をみる。 ・小テストや課題提出等を通して、学習意欲をみる。 ・小テストや定期考査などで、中国語や文化についての知識・理解をはかる。 ・「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の三観点から評価する。					

科目名 **日本文化概論**

対象 5 学年全員

I 学習到達目標

- 1 日本文化に誇りをもつとともに、伝統を尊重し、自ら進んで日本の伝統・文化を継承し、発展させようとする人材を育成する。
- 2 中学校における「社会と私Ⅰ～Ⅲ」を基に、国際社会を生きる日本人としての自覚を育成し、あらためて日本の文化について理解を深め、21世紀の国際社会を生きる日本人としてのアイデンティティの確立を図る。

II 授業の進め方（授業形態等）

- 1 日本の生活文化を必修とし、茶道、華道、書道、囲碁、将棋、日本音楽史の6講座から2講座を選択し、各学期に1講座を履修する。（3クラス7展開）
- 2 調査・研究、実技練習

III 教科書・補助教材

教科書 なし
補助教材 プリント等

IV 学習計画

学 期	月	学 習 内 容		授業時数	備考
		考 査			
一 学 期	4		オリエンテーション 調査・研究	3	
	5		調査・研究 実技練習	4	
	6		実技練習	4	
二 学 期	7		1学期のまとめ	3	
	9		調査・研究	2	
	10		調査・研究 実技練習	3	
	11		実技練習	5	
三 学 期	12		2学期のまとめ	5	
	1		調査・研究	2	
	2		調査・研究 実技練習	4	
	3		3学期のまとめ	4	
		実施しない	<p>「日本の生活文化」1講座、および、「日本音楽史」、「茶道」、「華道」、「書道」、「囲碁」、「将棋」の6講座から2講座の計3講座を選択</p> <p>【講座内容】</p> <p>1 日本の生活文化 日本に暮らす者として心得ておくべき先人達の知恵を学ぶ</p> <p>2 日本音楽史 日本音楽の歴史理解や和楽器の技術習得、および、日本音楽史と和楽器の総合学習をする</p> <p>3 茶道、華道 成立の歴史、日本人の礼法や精神・文化を学び、日本文化理解を深める。</p> <p>4 書道 毛筆による楷書・行書の用筆運筆と歴史や日本人の書の美意識を学習し、自己の創作作品を書く</p> <p>5 囲碁、将棋 歴史や対局のルールから日本人の思想と礼法や精神を学び、囲碁、将棋についての理解を深める。</p> <p>【探究】 日本文化と海外の文化を比較し、比較文化論をまなぶとともに、海外修学旅行、海外短期研修などの機会を捉えて現地の伝統文化を研究する。 日本の伝統・文化についてのプレゼン実施</p> <p>【まとめ】 ・探究内容グループ発表。 ・グループ論文作成。</p> <p>【発表活動】 文化祭などでの作品展示や日常展示</p>		
				計 39 (1単位)	

評 価 年間を通した生徒の活動や学習の過程、作品、発表や討論に見られる学習状況、出席状況や成果、また、学習に対する意欲や態度、思考力、判断力、表現力などに加えて、生徒の自己評価や相互評価などを総合的に評価する。

教科名 総合的な探究の時間
 科目名 **総合的な探究の時間**
 対象 5 学年全員

I 学習到達目標

横断的・総合的な探究学習を通して自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質と能力、データ分析力、日本語での論文作成力、文章による表現・伝達力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身につけ、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、共同的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考える。

II 授業の進め方（授業形態等）

個別課題探究（課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・発表）、一斉授業および専門分野ごとの少人数指導

III 教科書・補助教材

教科書 なし
 補助教材 「課題研究メソッド 2nd Edition」啓林館

IV 学習計画

学 期	月	学 習 内 容		授業 時数	備考	
		考 査	「教科書」の学習内容			副教材・その他の学習内容
一 学 期	4		全体オリエンテーション	・年間計画の説明 5年生の研究活動の流れ説明 ・アドバイザー発表 ・文献調査の仕方	3	
	5		研究計画書作成	・研究計画書の作成に向けての指導 (よりよい研究計画書とは、研究計画書の基本構造とポイント)	4	
			研究計画書の振り返りと提出	・研究計画書作成		
	6		調査・研究の準備	・研究の実施(文献調査、アンケート調査など) ・研究ノートを作成する目的、記録すべきことの確認	4	
			調査・研究の軌道修正	・研究ノートの作成		
7		調査・研究・実験 データ整理・分析 研究のまとめ	・結果をまとめ、考察する (定量的、定性的なデータのまとめ方、分析方法) ・論理の組み立て方 (図・表の分析、文章などの分析、結論を導くためのロジックツリー)	3		
	夏休み 課題		調査・研究・実験活動(夏季研究報告書に記録)			
二 学 期	9		夏季研究報告書作成、発表	・「夏季研究報告書」に基づく中間発表と準備	4	
	10	実 施 せ ず	夏季研究報告書振り返りと提出	・「夏季研究報告書」まとめ	6	
			論文作成の基本	・論文の作成 (論文の基本的な構成、各項目の役割・書き方)		
	11		論文作成	各個人の端末を使用して論文作成 ・アドバイザーから指導を受けながら論文作成を進める		
12		論文作成	各個人の端末を使用して論文作成 ・アドバイザーから指導を受けながら論文作成を進める	7		
三 学 期	1 2 3		論文完成	各個人の端末を使用して論文完成 ・アドバイザーから指導を受けながら論文完成を進める	7	
				計35 (1単位)		
評 価	・年間を通して課題研究へ主体的に取り組んでいるか ・出席状況や成果物の状況や学習に対する意欲や態度は良好か ・思考力、判断力、表現力などに加えて、生徒の自己評価や相互評価はどうか 以上の点を総合的に評価する					